

平成 3 年

(1991年)

気象概況

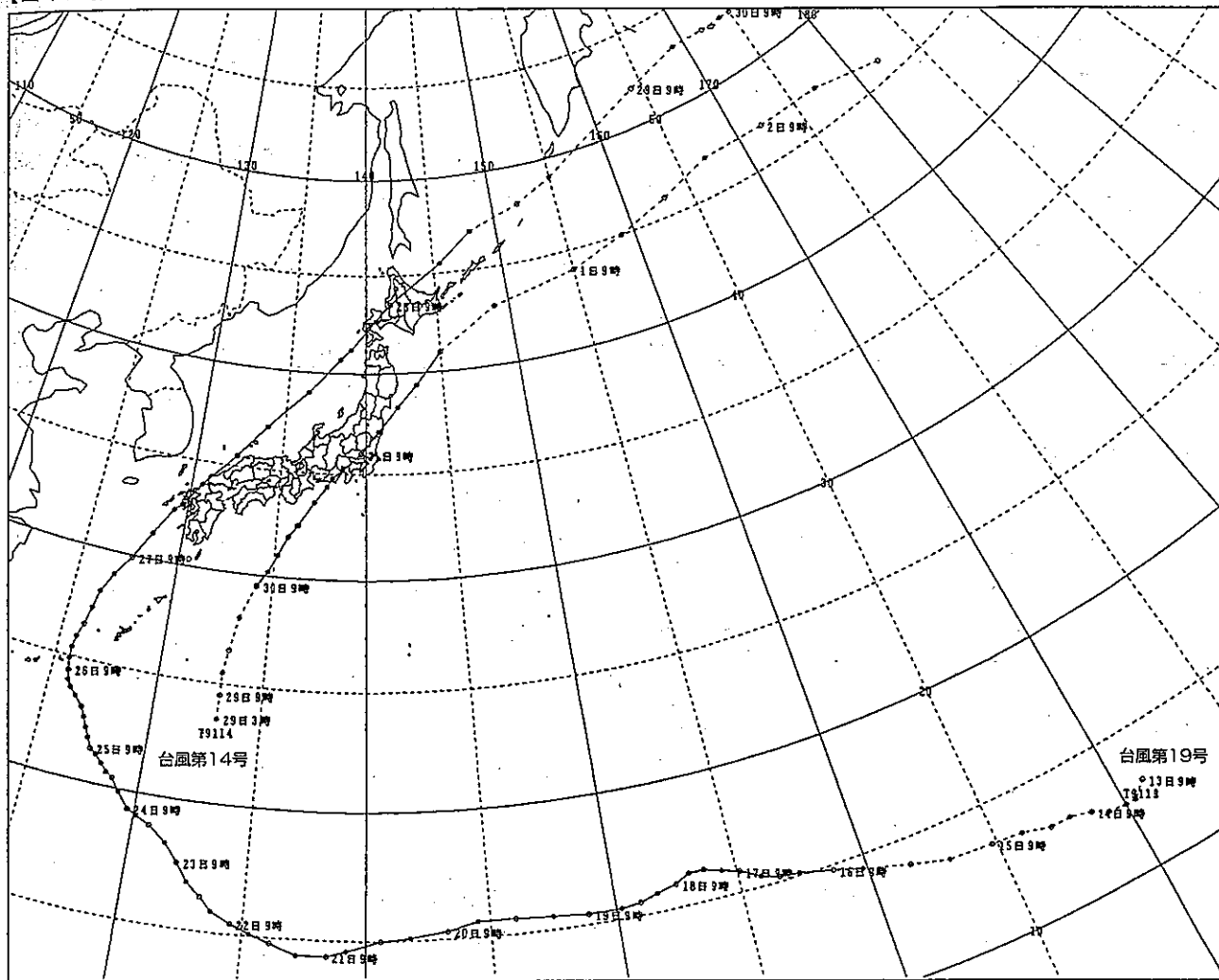
年明けて寒気の南下が弱く、1月は暖冬傾向が続いた。気温は全国的に高く特に最低気温が $1^{\circ}\text{C}\sim 6^{\circ}\text{C}$ 高かった。2月の前半も引続き暖冬であったが、後半強い寒気の南下で、県全域でにわか雨や、にわか雪の降る日が多かった。10日には、近畿地方に平年(2月27日)より17日早い春一番が吹いた。3月は全般に高温で、短い周期で低気圧が通過し、曇りや雨の日が多かった。4月4日には彦根で桜(ソメイヨシノ)が平年(4月5日)より1日早く開花した。5月に入ると、天気は周期的に変化し、気温は平年並みであった。下旬になると西日本には梅雨前線が停滞し、近畿地方は5月26日(平年6月8日)、に梅雨入りした。6月26日には太平洋高気圧が強くなり、夏型の気圧配置となったため、26日の彦根の最高気温 34.5°C は6月では最も高い記録となった。しかし、その後は例年に比べ太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱く、日照不足の日が続いたので、7月1日には日照不足に関する情報を発表した。中旬末には太平洋高気圧の勢力が強くなったことから、近畿地方は7月21日(平年7月19日)に梅雨明けした。8月は太平洋高気圧の勢力が弱く、オホーツク海高気圧からの冷たい気流の影響で冷夏となり、日照不足が顕著であった。9月に入ると、全国的に高温となり、残暑が続いた。又、大型で強い台風第19号は、強い勢力を保ちながら27~28日に日本列島を縦断し各地に甚大な被害を与えた。9月の高温傾向は10月前半まで続いた。その後秋雨前線が本州の南岸に停滞し、曇りや雨の日が多かった。11月から天気は周期的に変化し、24日から強い冬型となり、25日には木枯らし1号が吹いた。12月に入っても天気は周期的に変化し、気温も全般に高温で経過した。年末には冬型の気圧配置となり県下各地で積雪を観測した。各地の積雪は柳ヶ瀬 39cm 、今津 32cm 、彦根 3cm であった。

1 台 風

(1) 台風の概況

台風は29個発生し、発生数、上陸数においても平年並みであったが、本土へ9個の台風が接近し(うち3個が上陸)、平年(5.3個)より2倍多かった。これは1955年の10個に次ぐ記録である。このうち7個は8月末から10月前半に集中しており、ほぼ週末毎に台風が来襲した。特に第19号は大型で非常に強い勢力を保ったまま上陸し、各地に大きな被害をもたらした。

【日本に影響のあった台風の経路】



《彦根地方気象台における極値》

台 風 番 号	最 低 気 圧	最 大 風 速	最 大 瞬 間 風 速
台風第14号	999.0hPa	WNW 8.1m/s	NW 13.3m/s
台風第19号	992.4hPa	S E 13.2m/s	S E 26.1m/s

(2) 災害の状況

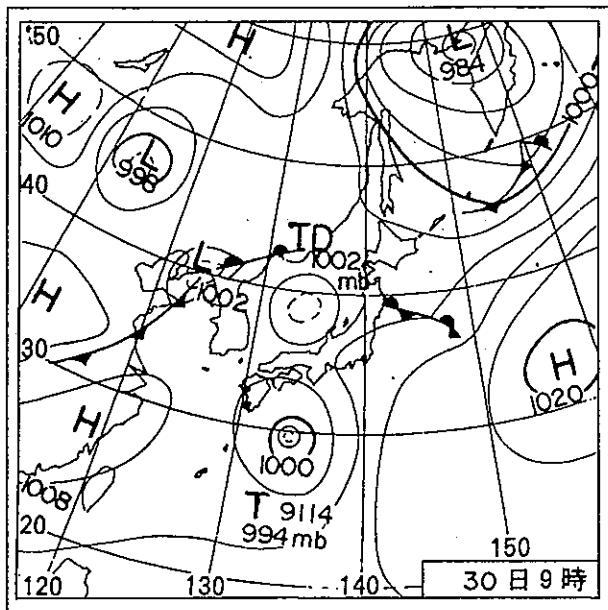
◆台風第14号(8月30日)

I 気象の概要

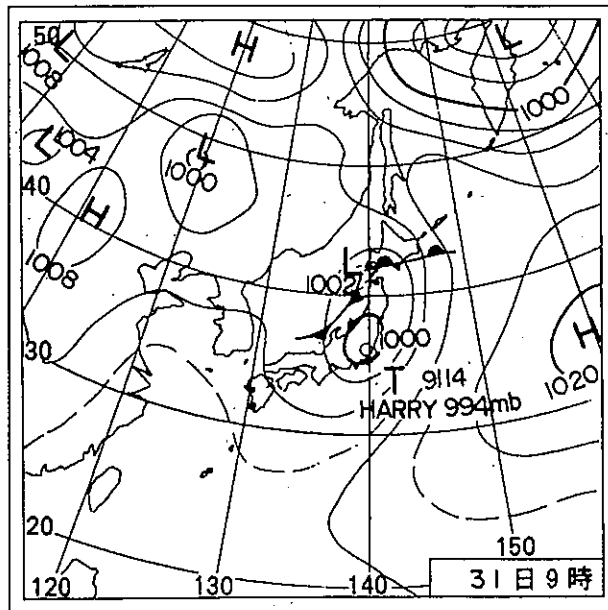
8月29日03時に南大東島の南東海上で発生した弱い熱帯低気圧は北に進み、30日09時、四国のはるか沖合いで台風第14号となった。やや発達しながら北東に進み、30日15時から小型で弱い勢力となり、31日02

時30分頃、静岡県浜松市付近に上陸した。その後、関東地方を通過して本州東方海上に進み、31日21時、釧路沖で温帯低気圧となり北太平洋を東進した。彦根における最低気圧は999.0hPa（31日02時17分）、最大風速は西北西の風8.1m/s（31日04時50分）、最大瞬間風速は北西の風13.3m/s（31日05時10分）であった。

【8月30日9時の天気図】



【8月31日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

小型で弱い台風第14号は、8月30日午後には、やや発達しながら太平洋上を北上し、31日朝には東海地方に上陸する可能性が高くなり、滋賀県では昼過ぎより雨が降り始めた。この雨も台風の接近に伴って次第に激しくなり鈴鹿山系を中心に時間雨量20mm以上の強い雨が20時頃から31日01時頃にかけて降った。県内各地での最大時間雨量は、水口町（八坂）で33.5mm、甲賀町（大原）で39mm、土山町（北土山）で47mm、日野町（河原）で31.5mm、竜王町（小口）で35mm、近江八幡市（桜宮）で30.5mmなどの強い雨を記録した。また、最大24時間雨量も水口、八日市土木事務所管内で80mmを越す豪雨となり、中でも水口町（八坂）で140mm、土山町（北土山）で204.5mm、日野町（河原）で124.5mmの激しい雨を記録した。

◇大雨（8月30日～31日）

30日に四国のはるか南海上で台風第14号が北東進し、また前線を伴った低気圧が北日本に接近し、滋賀県では昼前から雨が降り出した。その後、四国の南海上を北東進した台風は、31日に静岡県に上陸して雨は31日の早朝まで続いた。

30日から31日にかけての県内の降水量は湖西を除いて70～150mmであった。

《気象台観測所雨量》

単位(mm)

地域気象観測所における降水量

(8月30日~31日)

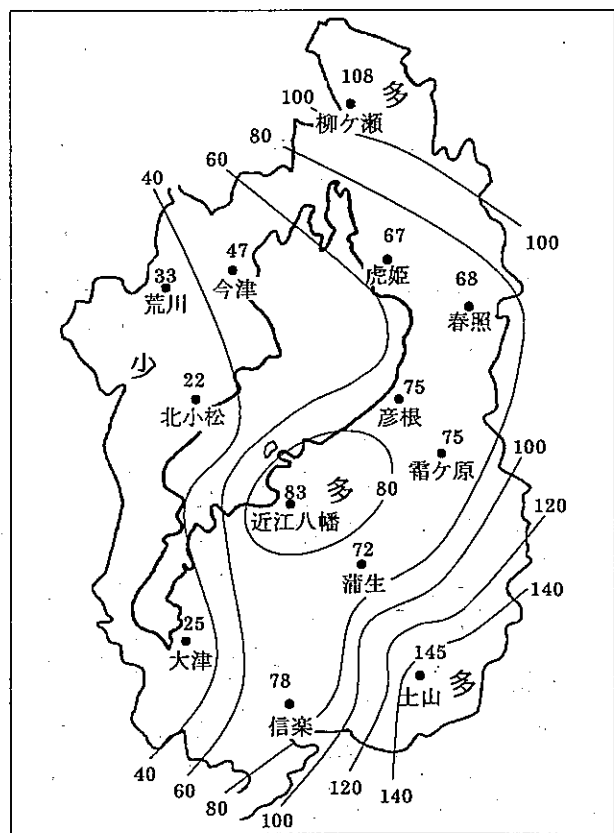
観測所	日	30日	31日	計
柳ヶ瀬		53	55	108
今津		45	2	47
虎姫		59	8	67
荒川		28	5	33
春照		59	9	68
北小松		22	-	22
彦根		61	14	75
近江八幡		71	12	83
霜ヶ原		60	15	75
蒲生		57	15	72
大津		25	-	25
信楽		65	13	78
土山		116	29	145

-=なし

【降水量分布図】

単位(mm)

(8月30日~31日)



Ⅲ 出水の状況

8月30日昼過ぎから台風を取り巻く雨雲の影響で降り始めた雨は、台風の接近に伴い鈴鹿山系を中心に20時頃より31日01時にかけて時間雨量20mm以上の強い雨を記録した。中でも甲賀町(大原)で最大時間雨量39.0mm、最大24時間雨量140.0mm、土山町(北土山)で最大時間雨量47.0mm、最大24時間雨量204.5mm、日野町(河原)で最大時間雨量31.5mm、最大24時間雨量124.5mmの激しい豪雨に見舞われた。

この豪雨による出水により、小河川では溢水氾濫や、床下浸水、道路の冠水、田畑の冠水等の一般被害をはじめ、甲賀・日野地方では河岸の欠損、道路の欠損等の公共土木施設に被害が発生した。

河川名	観測所	直轄・県土木事務所名	警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
田村川	前川橋	水口土木	1.80	2.15	31日01時
日野川	桐原橋	八日市土木	3.00	3.25	31日04時

Ⅳ 被害の状況

(ア) 住家被害

区分	棟	世帯	人	被災市町村
床下浸水	1	1	1	水口町

(ウ) 被害金額

区分	金額(千円)
公共土木施設	372,097
〈小計〉	372,097
〈被害総額〉	372,097

(イ) 農林水産・土木関係被害

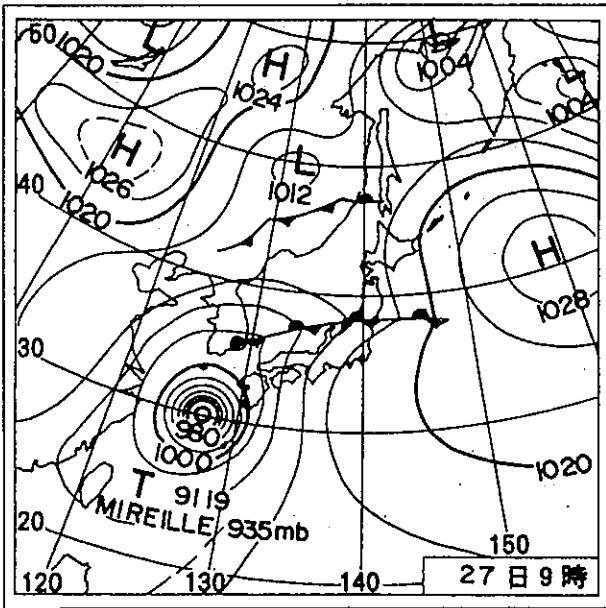
区分	箇所	被災市町村(箇所)
橋りょう	3	水口県事務所管内(1) 八日市県事務所管内(2)
河川	22	水口県事務所管内(16) 八日市県事務所管内(6)
道路	6	水口県事務所管内(5) 八日市県事務所管内(1)

◆台風第19号 (9月27日~28日)

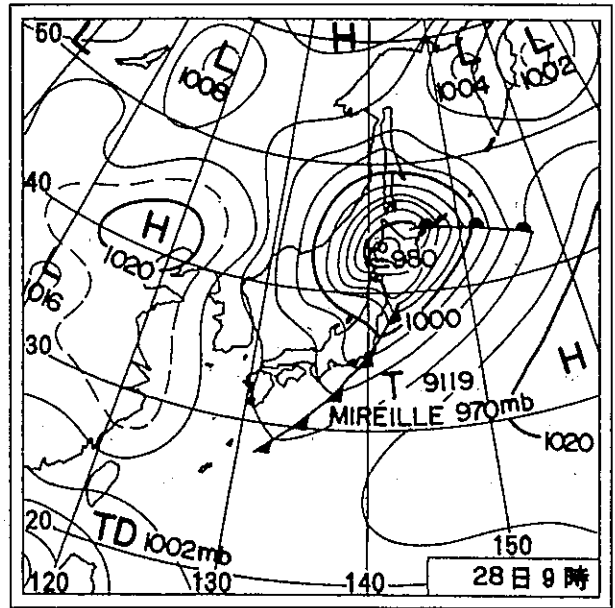
I 気象の概要

9月13日09時にマーシャル諸島の東で発生した弱い熱帯低気圧は西に進み、16日09時にマーシャル諸島の西で台風第19号となった。台風は発達しながら、22日にフィリピンの東で進路を北西に変え、大型で非常に強い勢力となった。26日に宮古島の東を北上した後、進路を北東に変えて27日16時過ぎに大型で非常に強い勢力を保ちながら長崎県佐世保市の南に上陸した。上陸後は加速しながら日本海を北東に進み、28日08時前に大型で強い勢力で渡島半島に再上陸し、28日15時には千島近海で温帯低気圧に変わり、さらに東北東に進んだ。彦根における最低気圧は992.4hPa (27日22時06分)、最大風速は南東の風13.2m/s (27日21時40分)、最大瞬間風速は南東の風26.1m/s (27日21時36分)であった。

【9月27日9時の天気図】



【9月28日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

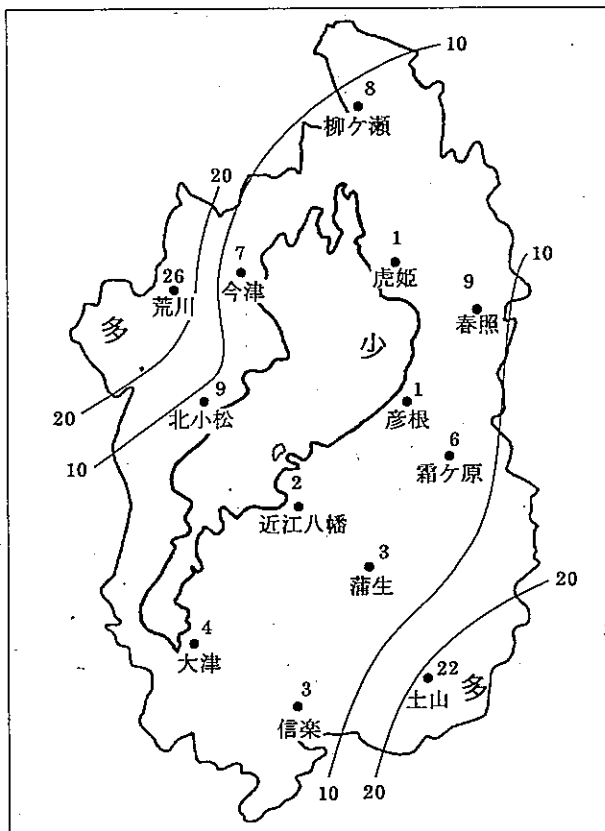
II 降雨の状況

27日、台風第19号は長崎県佐世保市に上陸した後、日本海を強い勢力を保ちながら加速して北東進した。滋賀県も20時頃から暴風圏内に入り、南東の風は強かったが、降水量は30mm以下と少なかった。

《気象台観測所雨量》 単位(mm)
地域気象観測所における降水量
(9月27日~28日)

観測所	日	27~28日
柳ヶ瀬	瀬	8
今津	津	7
虎姫	姫	1
荒川	川	26
春照	照	9
北小松	松	9
彦根	根	1
近江八幡	幡	2
霜ヶ原	原	6
蒲生	生	3
大津	津	4
信楽	楽	3
土山	山	22

【降水量分布図】 単位(mm)
(9月27日~28日)



Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発 表 ・ 切 替 ・ 解 除
強風注意報	27日10時30分	発表
暴風警報・大雨洪水注意報	27日18時20分	切替
強風注意報	28日03時00分	〃
琵琶湖強風注意報	28日10時50分	〃
〃	28日18時30分	解除

(イ) 気象情報

種 類	発 表 時 刻	種 類	発 表 時 刻
台風に関する情報第1号	27日16時10分	台風に関する情報第4号	28日00時55分
台風に関する情報第2号	27日19時05分	台風に関する情報第5号	28日03時15分
台風に関する情報第3号	27日22時00分		

(ウ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配 備 ・ 切 替 ・ 解 除
第2号警戒体制	27日18時20分	配備
〃	28日03時00分	解除

IV 被害の状況

(ア) 住家被害

区分	棟	世帯	人	被災市町村(棟・世帯・人)
一部損壊	11	11	24	彦根市(1・1・2) 愛知川町(4・4・10) 木之本町(3・3・4) 西浅井町(1・1・6) 安曇川町(2・2・2)
非住家	公共建物	5		浅井町(2) 木之本町(2) 新旭町(1)
	その他	5		浅井町(2) 木之本町(1) 西浅井町(1) 安曇川町(1)

(イ) 農林水産・土木関係被害

区分	箇所	被災市町村(ha・箇所)
学校	13	草津市(1) 永源寺町(1) 彦根市(4) 虎姫町(1) 木之本町(5)
道路	9	大津市(8) 今津町(1)
河川	3	大津市(2) 今津町(1)
電気(停電)	250	大津市(200) 安曇川町(50)
ビニールハウス	87	守山市(3) 能登川町(17) 彦根市(42) 愛東町(10) 豊郷町(4) 甲良町(7) 米原町(3) 西浅井町(1)
街路灯	2	木之本町(2)

(ウ) 被害金額

区分	金額(千円)
公立文教施設	5,618
その他公共施設	1,290
〈小計〉	6,908
農産被害	53,241
その他	1,180
〈被害総額〉	61,329

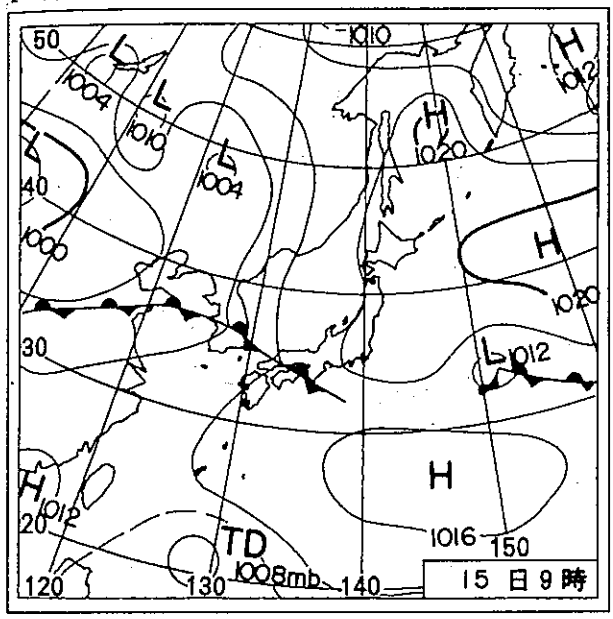
2 豪 雨

大雨(7月15日~18日)

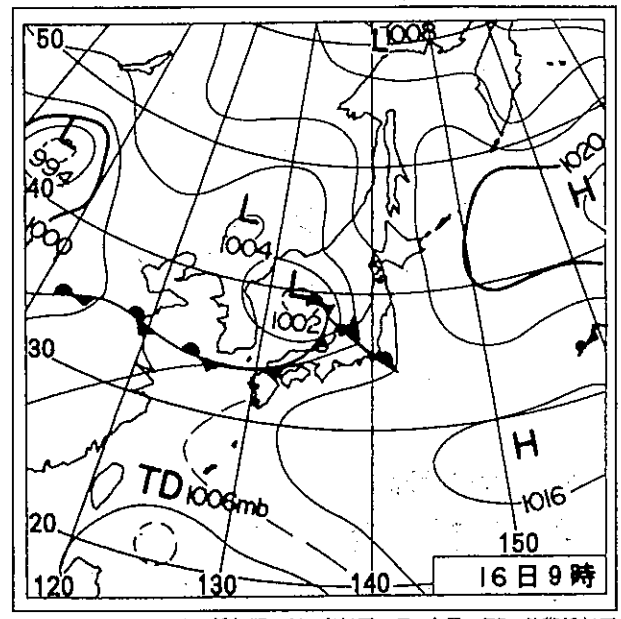
I 気象の概要

15日は大陸から延びてきた前線が活動を強め、大気の状態が不安定となって全域で発雷し大雨となった。16日は前線上に発生した低気圧が発達しながら日本海を東進し、前線活動も活発で終日雨であった。17日は南岸に停滞していた梅雨前線がゆっくり北上したため夜半前から雨となった。

【7月15日9時の天気図】

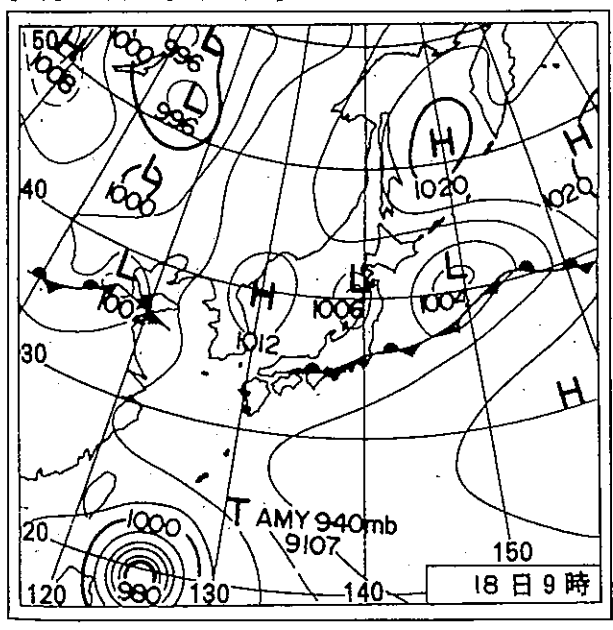


【7月16日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

【7月18日9時の天気図】



II 降雨の状況

18日は前線の通過で一時強い雨が降った。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

(7月15日～18日)

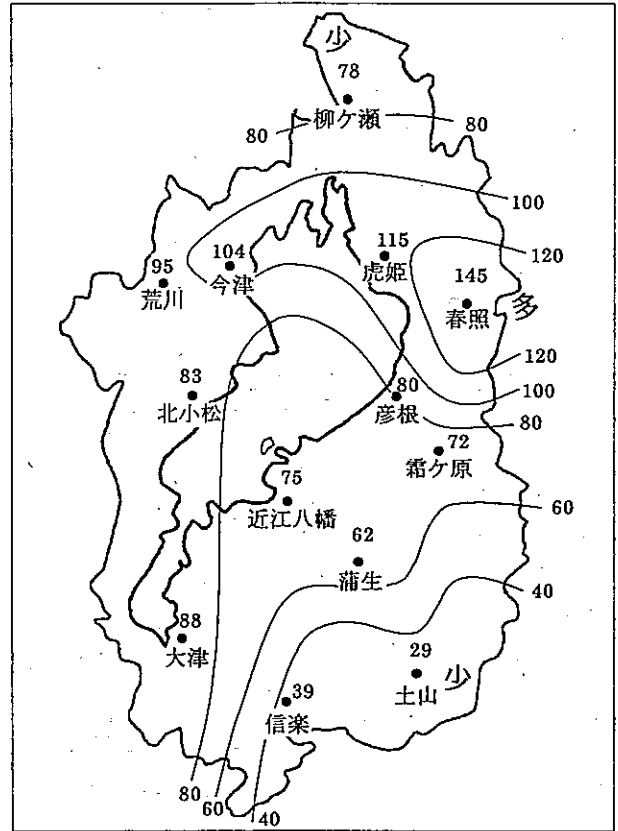
観測所	日	15日	16日	17日	18日	計
柳ヶ瀬		6	33	26	13	78
今津		16	32	33	23	104
虎姫		28	34	36	17	115
荒川		15	30	34	16	95
春照		40	56	38	11	145
北小松		49	21	2	11	83
彦根		32	20	12	16	80
近江八幡		42	10	1	22	75
霜ヶ原		31	25	5	11	72
蒲生		44	7	2	9	62
大津		71	12	-	5	88
信楽		28	6	1	4	39
土山		16	8	1	4	29

-=なし

【降水量分布図】

単位 (mm)

(7月15日～18日)



Ⅲ 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区分	箇所	被災市町村
ブロック塀	1	浅井町(1)

(イ) 被害金額

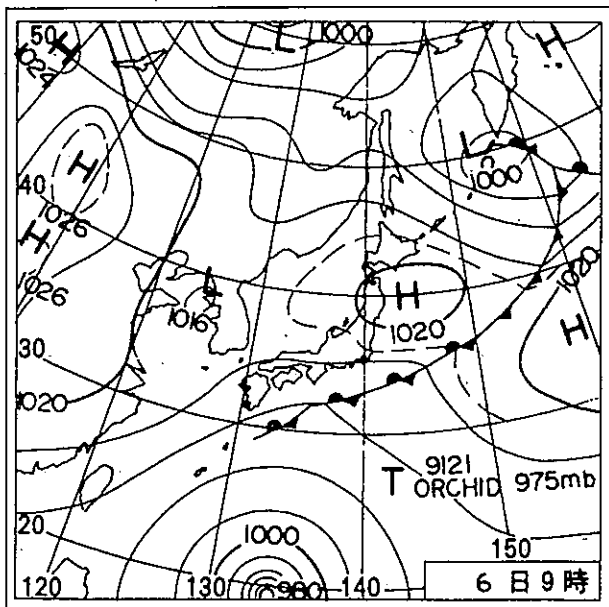
区分	金額(千円)
その他	2,000
《被害総額》	2,000

◆大雨 (10月6日～7日)

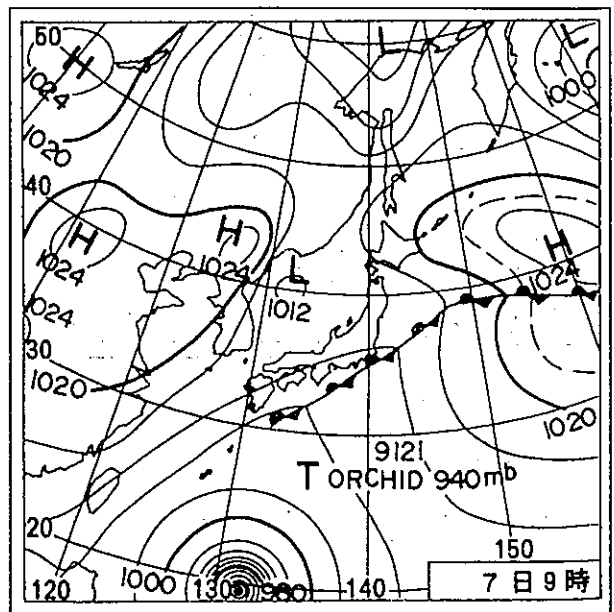
I 気象の概況

台風第21号が本州のはるか南海上を北東進し、南岸に停滞していた秋雨前線に向かって暖湿気流が入り、前線の活動が活発となった。6日夕方頃より雨が降り出し7日の午前中まで続いた。

【10月6日9時の天気図】



【10月7日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

前線の活動が活発になり、6日夕方頃より雨が降り出し7日の午前中まで続いた。

《気象台観測所雨量》

単位(mm)

地域気象観測所における降水量

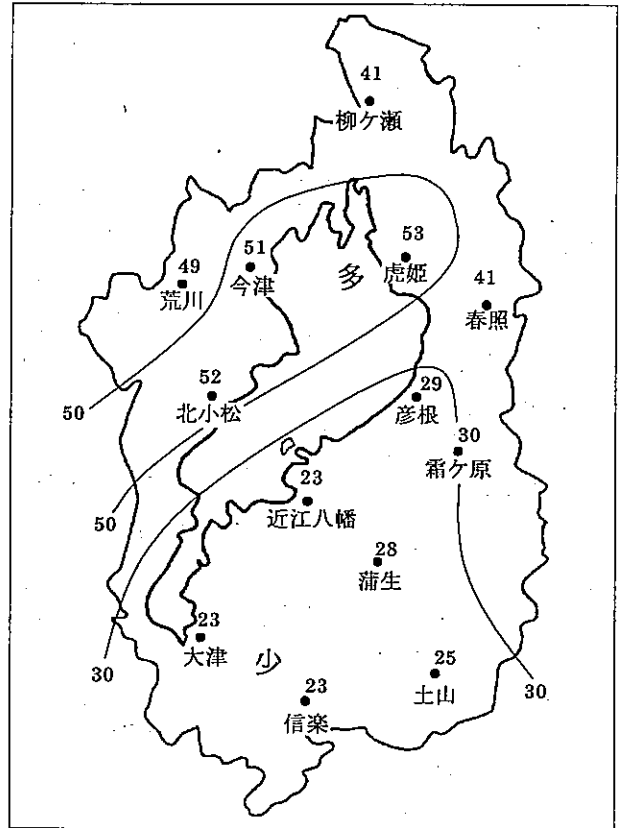
(10月6日~7日)

観測所	日	6~7日
柳ヶ瀬		41
今津		51
虎姫		53
荒川		49
春照		41
北小松		52
彦根		29
近江八幡		23
霜ヶ原		30
蒲生		28
大津		23
信楽		23
土山		25

【降水量分布図】

単位(mm)

(10月6日~7日)



III 被害の状況

(ア) 住家被害

区分	棟	世帯	人	被災市町村(棟・世帯・人)
一部破損	1	1	5	木之本町(1・1・5)

(イ) 農林水産・土木関係被害

区分	箇所	被災市町村
崖くずれ	1	木之本町(1)

(ウ) 被害金額

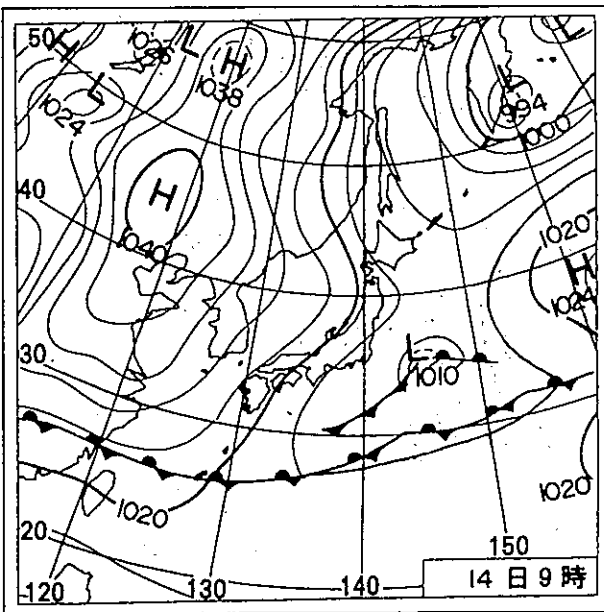
区分	金額(千円)
その他	2,000
《被害総額》	2,000

◆雪害 (3月15日)

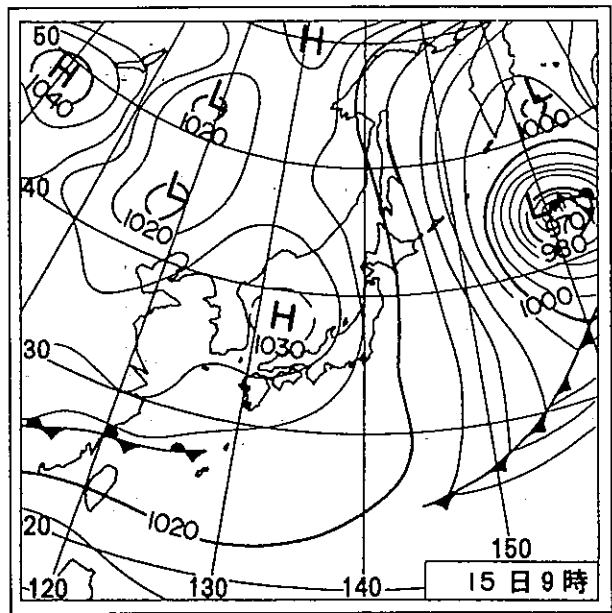
I 気象の概況

14日、低気圧が東海上で発達して冬型気圧配置が強まり、北西の季節風が吹いて全域で夜半前から雪が降り始めた。

【3月14日9時の天気図】



【3月15日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雪の状況

15日の午前中にかけて、信楽5cm、土山2cmなど南部を中心に積雪があった。

III 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

市町村名	作物名	面積 (ha)	被害金額 (千円)
大 津 市	スギ	4.97	1,810
	ヒノキ	7.98	11,396
土 山 町	スギ	68.9	20,296
	ヒノキ	1.1	1,066
甲 賀 町	スギ	5.5	1,736
	ヒノキ	9.5	7,428
甲 南 町	スギ	9.5	2,336
	ヒノキ	0.5	598
信 楽 町	スギ	144	94,890
	ヒノキ	21.1	19,201
栗 東 町	スギ	1.5	412
	ヒノキ	2	1,496
合 計		276.55	162,665

(イ) 被害金額

区 分	金額 (千円)
林産被害	162,665
《被害総額》	162,665



事故災害

高松
徳島

◆信楽高原鐵道列車衝突事故

I 事故の概要

5月14日10時35分頃、信楽高原鐵道(単線)貴生川駅、紫香樂宮跡駅間において、信楽発貴生川行き上り534D列車(4両)と、開催中の世界陶芸祭観客輸送のための直通乗り入れしていた、京都発貴生川經由信楽行き下りJR西日本「世界陶芸祭号」501D(3両)とが正面衝突し、乗務員も含めて死者42名、重軽傷者614名を出す大惨事となった。

II 発生状況

時刻	JR西日本列車	時刻	信楽高原鐵道列車
9:42頃		9:42頃	JR西日本龜山CTCセンターの指令員は、下り531D列車(SK R車両で、信楽駅到着後折り返し上り534D列車となるが、事故に遭遇する。)を出発させるため、JR貴生川駅の出発信号機を「青」信号とした。
		9:46頃	531D列車は、貴生川駅を2分遅れで信楽駅に向かって出発
9:51頃	JR西日本龜山CTCセンターの指令員は、方向優先テコを操作したため、下り方面に運転方向が固定される。	10:10頃	531D列車は、信楽駅に3分遅れで到着、534D列車となる。
		10:12頃	534D列車を10:14頃に出発させるため、信楽駅で出発信号機を「青」信号にしようとしたが、「赤」信号のままとなったので、同駅の信号リレー室で点検・修理を実施。
10:17頃	JR西日本龜山CTCセンターの指令員は、京都駅からの直通乗り入れ列車501D列車(世界陶芸祭号)を貴生川駅から出発させるため、貴生川駅の出発信号機を「青」信号とした。		
10:19頃	501D列車は貴生川駅を約3分遅れで出発	10:24頃	信楽高原鐵道は、534D列車を代用閉塞方式で出発させることに決定、職員を小野谷対向施設に社用車で出向させる。
		10:25頃	534D列車は、ATSを解除し、手信号により、11分遅れで信楽駅を出発。 信楽駅の信号制御の誤出発検知装置が作動する。 信号リレー室の点検・修理者は、列車出発後も作業を継続。
10:31頃	501D列車は、無人の小野谷列車対向施設の場内信号機、出発信号機の「青」信号に従い、進行し通過する。 (ダイヤ上は、ここで534D列車が待機している。)	10:34頃	534D列車は紫香樂宮駅を出発。
10:35頃	501D列車と正面衝突。	10:35頃	501D列車と正面衝突。

Ⅲ 被害の状況

501D列車（JR）は1両目前頭部が上方に約60度折れ曲がり大破（脱線）し、また534D列車（信楽高原鐵道）は前1・2両目が大破・脱線した。特に、一両目は、4.5mほど車両が圧縮し、「へ」の字状に折れ曲がり、501D列車に乗り掛かる状態となった。

このため、534D列車は、乗員乗客の15人のうち（車掌1人を除く全員が1両目乗車）12人が死亡、3人が負傷した。

また、501D列車は、当時、乗車率240%程度と想定される混雑状態であり、一両目前頭部も50名程度の乗員乗客がおり、30人が死亡、611人が負傷した。

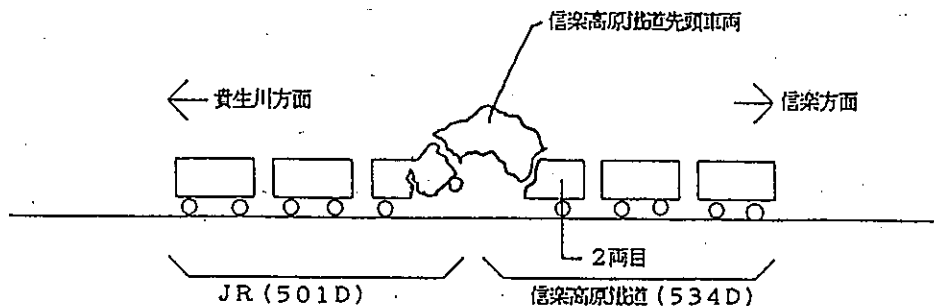
乗客乗務員および被災者数

(人)

		死亡者および負傷者数				計	無傷者	合計
		死亡者	負傷者					
			入院者	通院者	小計			
乗客数	J R 西日本 501D	30	93	517	610	640	66	706
	信楽高原鐵道 534D	7	2		2	9		9
	計	37	95	517	612	649	66	715
	男	18	27	112	139	157	19	176
	女	19	68	405	473	492	47	539
乗員数	J R 西日本 501D		1		1	1	1	2
	信楽高原鐵道 534D	5	1		1	6		6
	計	5	2		2	7	1	8
	男	5	2		2	7	1	8
	女							
計	J R 西日本 501D	30	94	517	611	641	67	708
	信楽高原鐵道 534D	12	3		3	15		15
	計	42	97	517	614	656	67	723
	男	23	29	112	141	164	20	184
	女	19	68	405	473	492	47	539

(注) JR西日本の501D列車は、91%の乗客が死傷している。
 信楽高原鐵道の534D列車は、全乗客が死傷しているが、これは乗客が前1両目、2両目に乗車していたためと思われる。

〔衝突の概略図〕



(出典名：信楽高原鐵道列車衝突事故支援対策の記録 平成7年3月 滋賀県)



その他

◆晩霜(5月5日)

I 気象の概要

5月2日、低気圧が東海上に通過後、日本付近は季節はずれの強い冬型の気圧配置となり、上空に強い寒気が流入してきた。4日から5日にかけて冬型は緩み、移動性高気圧に覆われてきたが、輪島500hPaの気温は-25.9℃(4日21時)と寒気が残り、5日の早朝は放射冷却と重なって各地で霜が降りた。

II 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
霜注意報	4日15時10分	発表
乾燥注意報	5日07時15分	切替

III 被害の状況

(ア) 市町村別の被害状況

市町村名	作物名	面積(ha)
土山町	茶	120
水口町	〃	44
甲賀町	〃	36
甲南町	〃	17
愛東町	〃	13
大津市	〃	10
信楽町	〃	10
日野町	〃	6
永源寺町	〃	3
伊香郡中心	小菊	2
伊吹町	柿	1
虎姫町 湖北町 びわ町 余呉町	桑	3
合 計		265

(イ) 被害金額

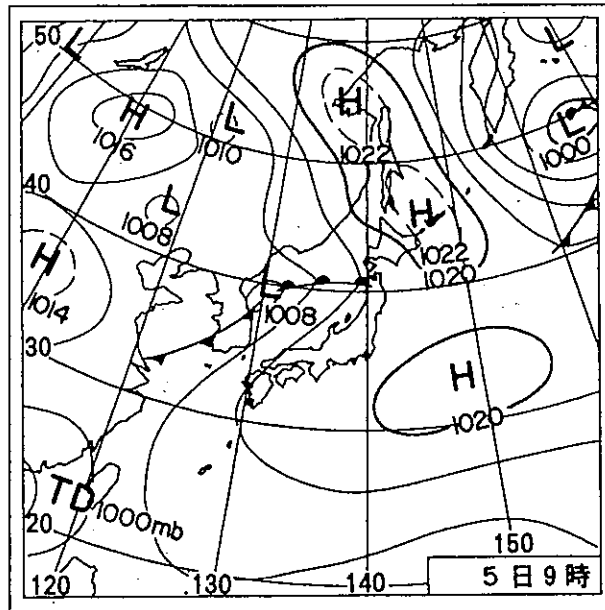
区 分	金額(千円)
農産被害	100,364
《被害総額》	100,364

◆落雷（9月5日）

I 気象の概要

前線を伴った低気圧が日本海を北東進し、暖湿気流が入って大気の状態が不安定になり所々で雷雨があった。

【9月5日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区分	戸	被災市町村
電気	118,000	彦根市、長浜市、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町、マキノ町、山東町、米原町、能登川町、近江町、豊郷町、甲良町、多賀町（各市町村の数値については不明）

平成 4 年

(1992年)

気象概況

年明け後も暖冬傾向が続き1月の気温はかなり高めで、降水量はかなり少なめで経過した。2月も冬型の気圧配置は長続きせず、気温も上旬はやや高く、中旬・下旬は平年並みであった。3月は気温はかなり高めであったが、曇りや雨の日が多く日照時間はやや少なめであった。彦根では桜(ソメイヨシノ)が平年(4月5日)より5日早く3月31日に開花した。5月は全般に低温で日照時間はやや少なく、下旬は大気の状態が不安定でにわか雨や雷雨の日が多かった。梅雨入りは6月7日(平年6月8日)で梅雨明けは7月21日(平年7月19日)であった。6、7月の降水量は少なめで、7月の中旬末頃から夏型の気圧配置となった。

8月には台風が西日本に相次いで3個(第9号、第10号、第11号)上陸した。気温は月の前半は低かったが後半は高く残暑が顕著だった。9月の上旬は高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、後半は台風や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。10月の天気は周期的に変化し、気温はやや高めで経過した。11月は下旬に強い冬型の気圧配置となり、27日には彦根で平年(11月14日)より13日遅く初霜を観測した。また、伊吹山、比良山で平年(伊吹山11月6日、比良山11月22日)より遅い初冠雪を観測した。

12月は中旬に強い冬型の気圧配置となり、15日には彦根で平年(12月7日)より8日遅い初雪を観測した。また、23日から25日にかけては強い冬型の気圧配置になり、北部で大雪となった。

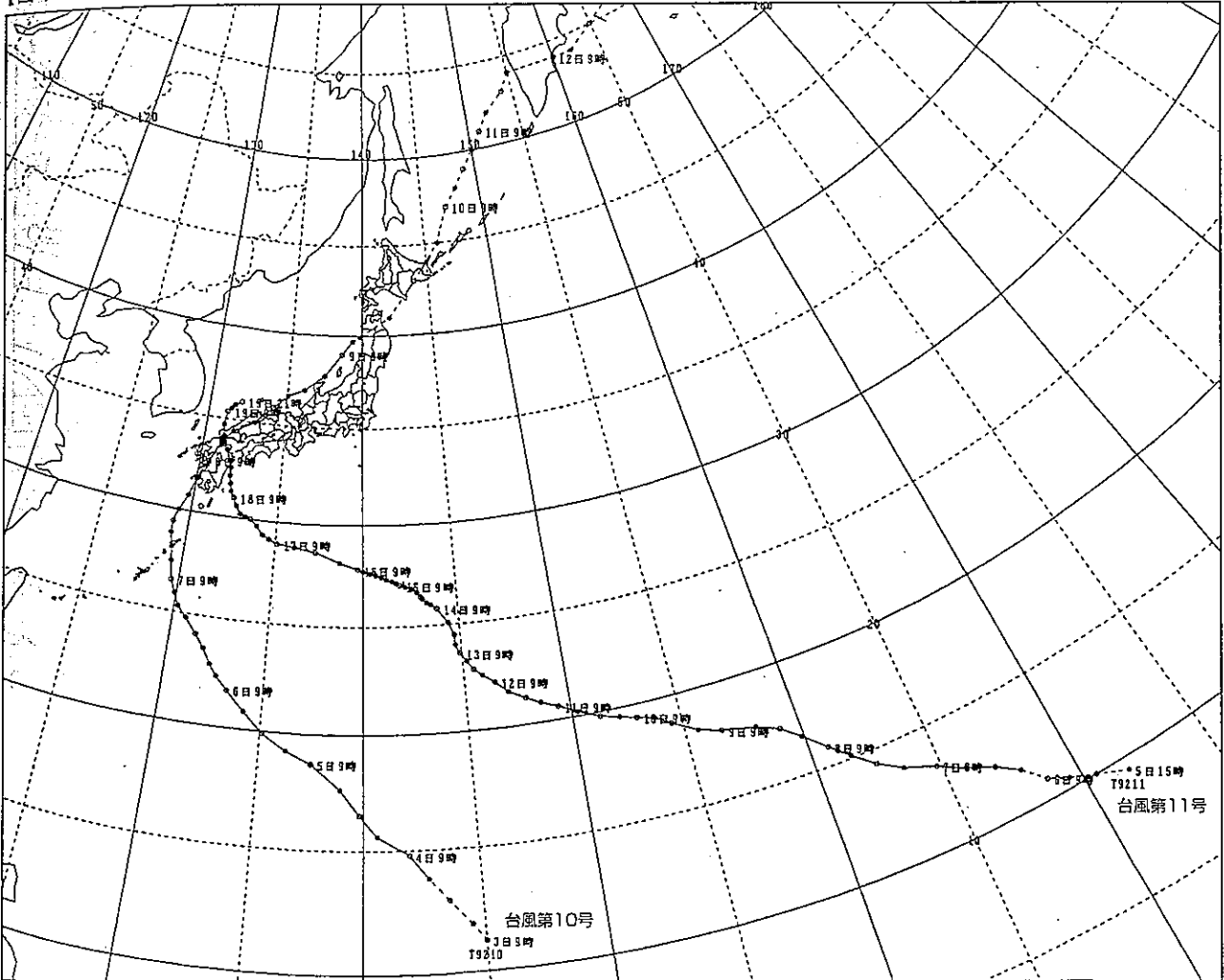


台 風

(1) 台風の概況

台風発生数は31個で平年(1961年~1990年)の27.8個より多かった。3月から5月までの発生はなく、8月に8個、10月に7個発生するなど、発生時期は7月~10月に集中した。上陸数は3個で、平年(2.8個)並みであったがすべて8月で西日本に集中した。

【日本に影響のあった台風の経路】



《彦根地方気象台における極値》

台風番号	最低気圧	最大風速	最大瞬間風速
台風第10号	998.5hPa	S S W 9.4m/s	S E 19.0m/s
台風第11号	1000.5hPa	E S E 7.9m/s	E S E 17.1m/s

(2) 災害の状況

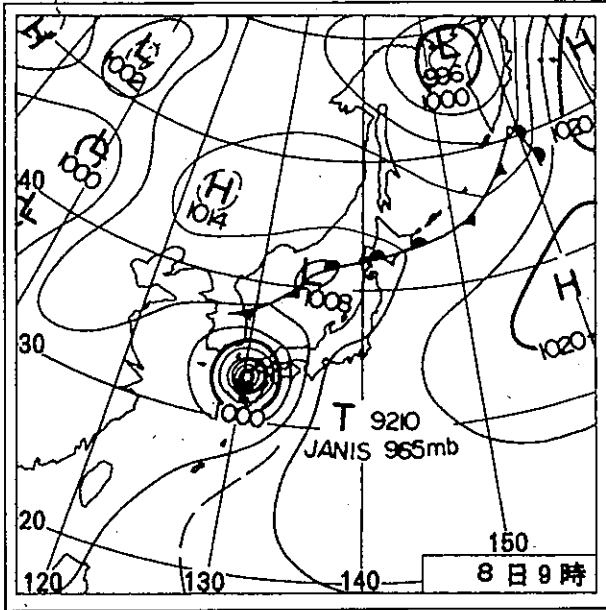
◆台風第10号(8月8日)

I 気象の概要

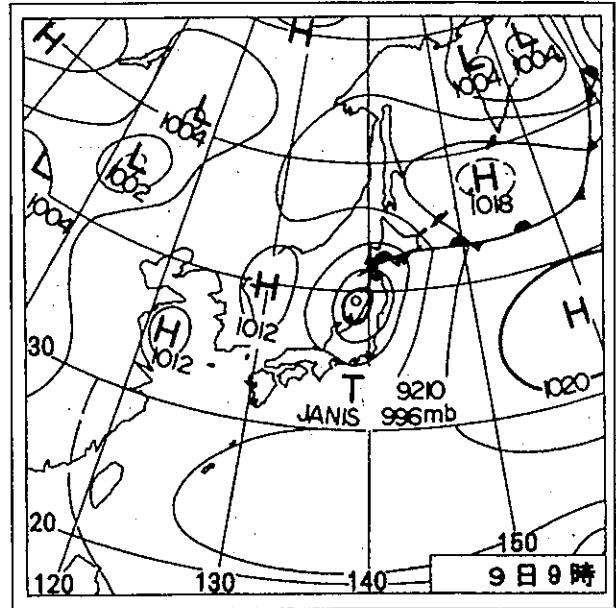
8月3日09時にグアム島の南で発生した弱い熱帯低気圧が、4日03時にグアム島の西で台風第10号となった。台風は発達しながら北西進し、7日16時頃中型の非常に強い勢力で奄美大島を通過した後、北北東に進路を変えて8日09時30分頃、熊本県玉名市付近に中型の強い勢力で上陸した。その後、九州北部、

周防灘を経て、13時過ぎに山口県宇部市付近に再上陸した。台風は中国地方を縦断し、山陰沖に抜けた後、9日12時に秋田県沖で温帯低気圧に変わった。この低気圧はその後、東北地方、北海道東部を通過し、オホーツク海へ進んだ。彦根における最低気圧は998.5hPa（9日00時01分）、最大風速は南南西の風9.4m/s（9日04時40分）、最大瞬間風速は南東の風19.0m/s（8日19時31分）であった。

【8月8日9時の天気図】



【8月9日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

中型で強い台風第10号は、8日09時30分頃、熊本県北部に上陸し、九州北部を横断して13時頃には山口県宇部市付近に再上陸した。その後、中国地方を縦断し、鳥取県鳥取市付近から日本海に出て近畿北部を暴風域に巻き込みながら北東進した。台風が彦根西から約200kmに最接近したのは9日00時頃であった。8日午後から各地で風は強まったが、降水量は8日から9日にかけて多いところでも40mm程度と少なかった。

《気象台観測所雨量》

単位(mm)

地域気象観測所における降水量

(8月8日~9日)

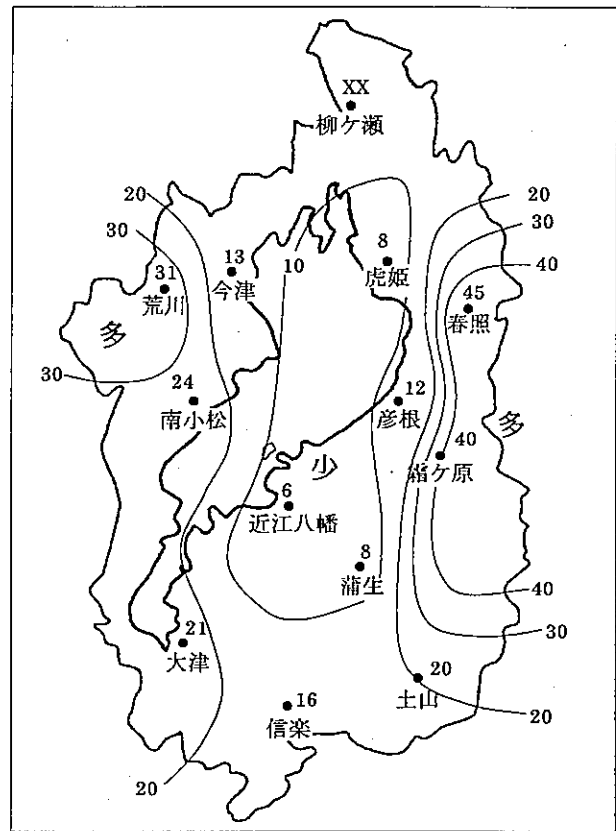
観測所	日	8~9日
柳ヶ瀬	ヶ 瀬	XX
今津	津	13
虎姫	姫	8
荒川	川	31
春照	照	45
南小松	小 松	24
彦根	根	12
近江八幡	江 八 幡	6
霜ヶ原	ヶ 原	40
蒲生	生	8
大津	津	21
信楽	楽	16
土山	山	20

XX=欠測

【降水量分布図】

単位(mm)

(8月8日~9日)



Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種	類	発表時刻	発表・切替・解除
強風	注意報	8日08時40分	発表
暴風	警報・大雨・洪水・雷注意報	8日16時20分	切替
強風	注意報	9日01時20分	〃
雷	注意報	11日14時00分	〃 (強風注意報解除)

(イ) 気象情報

種	類	発表時刻	種	類	発表時刻
台風に関する情報	第1号	8日10時40分	台風に関する情報	第4号	8日19時00分
台風に関する情報	第2号	8日13時00分	台風に関する情報	第5号	8日22時00分
台風に関する情報	第3号	8日17時00分	台風に関する情報	第6号	9日01時00分

(ウ) 県の対策状況

種	類	配備時刻	配備・切替・解除
第2号警戒体制		8日16時20分	配備
〃		9日01時20分	解除

IV 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

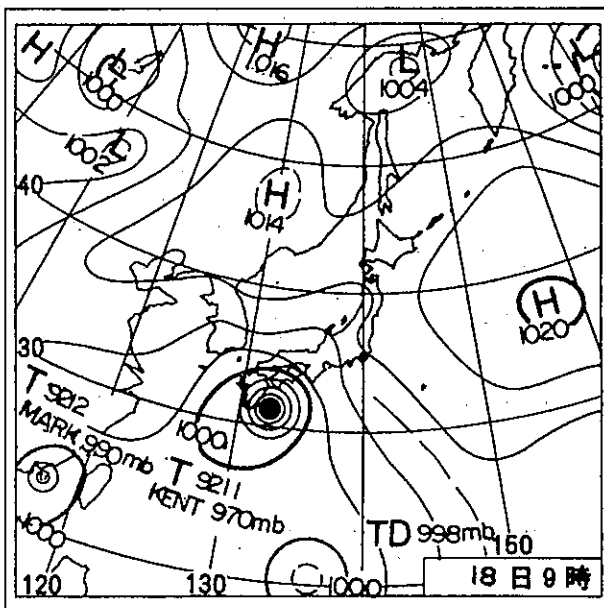
種類	被害の内容
鉄道被害	J R米原駅で上下線とも運転を一時見合わせた
船舶被害	琵琶湖で彦根・長浜・今津から竹生島めぐり定期遊覧船全便欠航

◆台風第11号 (8月18日~20日)

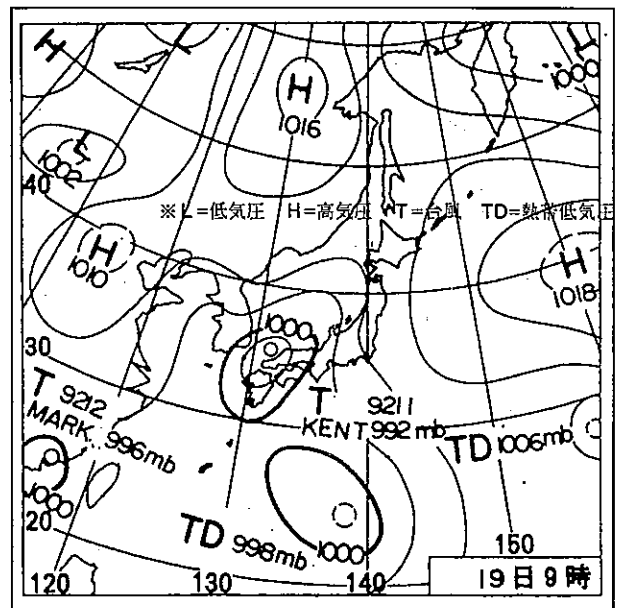
I 気象の概要

8月5日15時にマーシャル諸島で発生した弱い熱帯低気圧は、西北西に進み、6日15時に同海域で台風第11号となった。台風はその後も西北西に進み、発達しながら南鳥島の南海上を通過して、12日には非常に強い中型の勢力で父島の南東海上を北西進し、15日には父島の東海上で進路を北北西に変え、18日21時前に中型の弱い勢力で宮崎県と大分県境付近に上陸した。その後も北北西進を続け、19日02時30分頃、山口県宇部市付近に再上陸し、15時に山口県沖で弱い熱帯低気圧となった。彦根における最低気圧は1000.5hPa (19日14時37分)、最大風速は東南東の風7.9m/s (19日01時10分)、最大瞬間風速は東南東の風17.1m/s (19日00時38分)であった。

【8月18日9時の天気図】



【8月19日9時の天気図】



II 降雨の状況

中型で弱い台風第11号は、18日豊後水道を北上し21時頃、宮崎県と大分県の県境付近に上陸した。その後、勢力を弱めながら瀬戸内海を通り19日02時過ぎに、山口県を再上陸した後、日本海にぬけた。

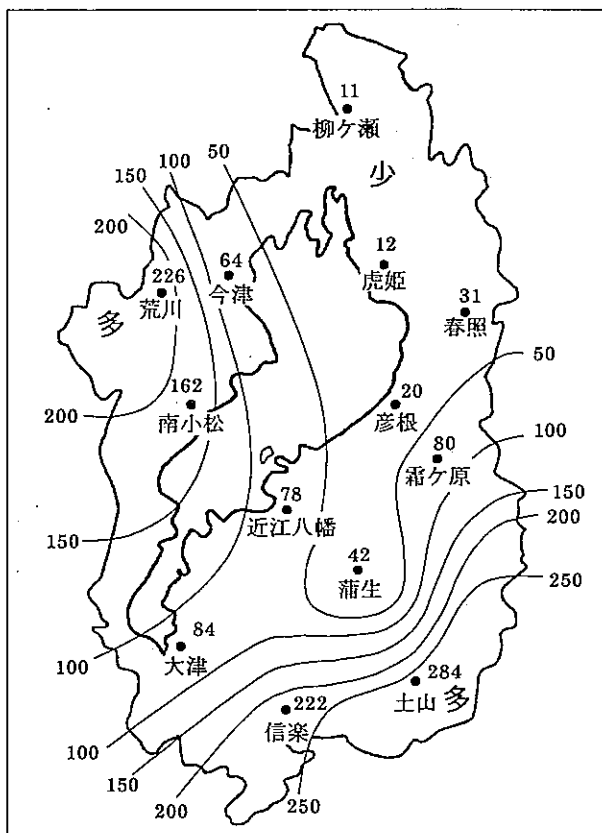
滋賀県では、18日早朝から雨が降り始め、湖東や南部の山間部を中心に雨量が多く、18日から20日にかけての降水量は土山284mm、荒川226mm、信楽222mmであった。

《気象台観測所雨量》 単位(mm)
地域気象観測所における降水量
(8月18日~20日)

観測所	日	18日	19日	20日	計
柳ヶ瀬		4	7	-	11
今津		14	45	5	64
虎姫		-	12	-	12
荒川		34	172	20	226
春照		8	23	-	31
南小松		29	124	9	162
彦根		3	15	2	20
近江八幡		28	43	7	78
霜ヶ原		44	34	2	80
蒲生		10	30	2	42
大津		33	49	2	84
信楽		56	153	13	222
土山		110	150	24	284

-=なし

【降水量分布図】 単位(mm)
(8月18日~20日)



Ⅲ 出水の状況

台風の影響で18日昼前から降り出した雨は次第に強くなり、県西部の比良山系と南部の鈴鹿山系を中心に集中豪雨に見舞われた。

中でも、大津市(葛川)では18日09時から20日10時までの総雨量647.5mm、最大24時間雨量で451mm、最大時間雨量で39mmというこの地域では近年にない大雨を記録した。これらの地域の河川は19日の夕方頃より増水し、安曇川などでは通報水位、警戒水位を越える異常な水位となったため、地元水防団が出動し、懸命の水防活動が行われたが、堤防が決壊する被害を蒙った。

このほか、電気、電話、水道などの使用不能、家屋の床上・床下浸水などの一般被害および各河川において、河岸欠損などの公共土木施設に甚大な被害が発生した。

出水の被害状況は20日11時30分頃、大津市葛川坂下町の足尾谷の通称足谷山の南側斜面が高さ300m、幅50mにわたって崩れた。約1万立方mの土砂はふもとの国道367号線を厚さ5mも埋めたうえ、国道わきの安曇川にも流れ込んだ。

大津市葛川支所や県大津土木事務所などは、鉄砲水が発生する恐れがあるとして住民に緊急避難を呼び掛け、4地区の69世帯約116人が住民センターなどに夕方まで一時避難した。

《主要河川水位表》

河川名	観測所	県土木事務所名	警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
田村川	前川橋上流右岸	水口土木	1.80	2.00	18日18時00分
安曇川	中村橋	大津土木	3.00	3.30	19日16時00分
祖父川	鶴川橋	八日市土木	1.50	1.53	19日17時00分
安曇川	常安橋	今津土木	1.50	1.99	19日17時30分

Ⅳ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
強風注意報	17日14時00分	発表
大雨・洪水・強風注意報	18日14時35分	切替
大雨・洪水・琵琶湖強風注意報	19日17時40分	〃
洪水注意報	20日06時20分	〃
〃	20日11時00分	解除

(イ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	18日14時35分	配備
〃	20日11時00分	解除

Ⅴ 被害の状況

(ア) 住家被害

区 分	棟	世帯	人	被災市町村(棟・世帯・人)
床上浸水	1	1	2	朽木村(1・1・2)
床下浸水	4	4	4	県内各所(4・4・4)

(イ) 農林水産・土木関係被害

区 分	ha	箇所	戸回線	被災市町村・直轄県土木事務所(ha、箇所)
田	流失埋没	0.6		朽木村(0.1) その他県内各所
	冠 水	0.7		甲賀町(1) 朽木村(0.7)
そ の の	道 路		45	土山町(13) 甲賀町(8) 朽木村(9) その他県内各所
	橋りょう		1	大津土木事務所管内(1)
	河 川		42	大津土木事務所管内(17) 水口土木事務所管内(9) 今津土木事務所管内(16)
	砂 防		2	大津土木事務所管内(2)
他	崖くずれ		8	土山町(1) 甲賀町(3) 甲南町(1) 朽木村(3)
	鉄道不通		1	水口県事務所管内(1)
	水 道		20	情報収集市町村(大津市、志賀町、土山町、甲賀町、甲西町、水口町、甲南町、信楽町、高島町、朽木村) なお各市町村の数値は不明
	電 話		311	
電 気		350		

(ウ) り災者数・り災世帯数

名 称	り災規模	被災市町村
り災世帯数	世帯 1	朽木村
り災人数	人 2	朽木村

(工) 被害金額

区 分	金額(千円)
農林水産業施設	693,450
公共土木施設	928,091
〈小 計〉	1,621,541
農産被害	3,670
林産被害	5,304
〈被害総額〉	1,630,515

2

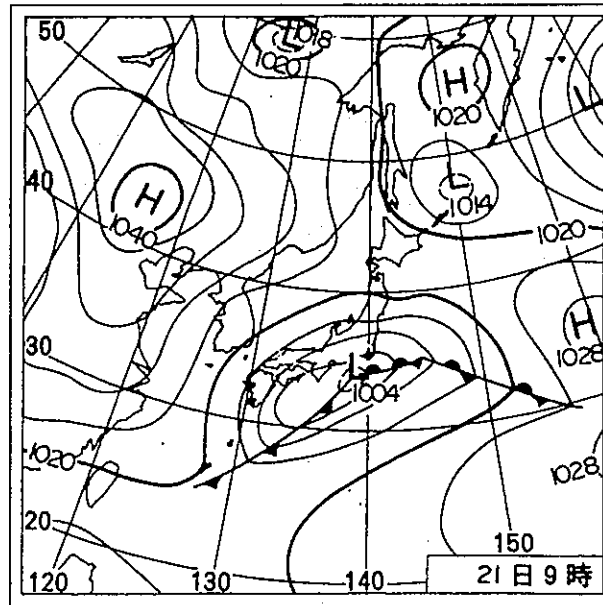
異常気象

◆風害(3月21日)

I 気象の概況

南岸を低気圧が発達しながら北東進したため北西の風が強かった。
彦根の最大風速は北西11.2m/s、最大瞬間風速は北西18.4m/sを観測した。

【3月21日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

県下全域で午前中を中心に、30~40mmのまとまった雨が降った。

【降水量分布図】

(3月20日~21日)

単位(mm)

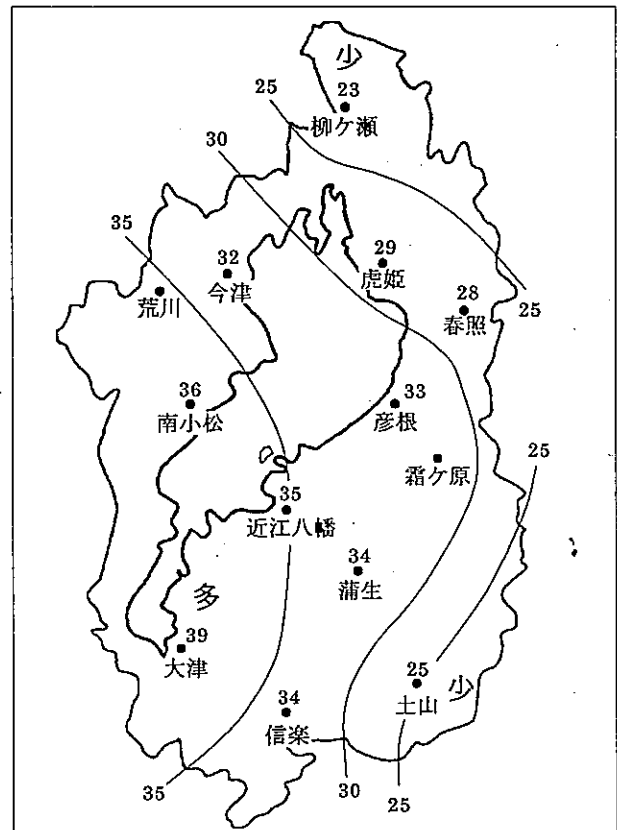
《気象台観測所雨量》

単位(mm)

地域気象観測所における降水量

(3月20日~21日)

観測所	日	20~21日
柳ヶ瀬		23
今津		32
虎姫		29
荒川		
春照		28
南小松		36
彦根		33
近江八幡		35
霜ヶ原		
蒲生		34
大津		39
信楽		34
土山		25



Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
強風注意報	21日09時10分	発表
琵琶湖強風注意報	21日20時50分	切替
〃	21日20時30分	解除

Ⅳ 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区 分	箇所	被災市町村	被 害 の 内 容
山 崩 れ	1	大津市	21日08時10分頃、県道下鴨大津線（大津市山上町）の道路わきで、山肌が崩れ落ち、前面通行止めとなった。
鉄 道	-	-	J R 湖西線では、強風のため、堅田-近江舞子間の上下13本の列車が運休し、6,400人に影響が出た。



地すべり

◆地すべり(7月19日)

I 気象の概要

7月11日頃から梅雨後期特有の雷を伴う強い雨が継続的に降り続いていたが(前日の総雨量35mm)18日の18時以降は降雨がなく、又19日は朝から本格的な夏日となった。

地すべりは19日05時30分頃、近江八幡市沖島町地先の琵琶湖沿いの主要地方道彦根近江八幡線の山側の道路法面で発生した。

本地域一帯は、中世代白亜紀後期～古第3紀に形成された湖東流紋岩類と呼ばれ、主として溶結凝灰岩として分布している。

崩壊した岩塊からは極めて硬質な流紋岩がみられる。一方崩壊面の崖面をみると非常に変質が進行し、脱色した流紋岩がみられる。この脱色流紋岩は、ハンマーで容易に砕ける。また、一部には土砂化した部分もみられる。この変質部は、崩壊面から尾根部へかけて狭く長く分布し、崩壊面は前面に硬質な岩塊を載せていたと考えられる。この変質帯の一部が浸食等により地表部にあらわれ開口したため、地下水が流入し徐々に脆弱化したものと考えられ、これがすべり面になり、地すべりが発生したものと考えられる。

岩すべりの規模は、県道山側の斜面に延長約25m、法長約25mにわたり発生しており、この崩落土石は、ロックネット、ロックフェンスなどを破壊して、路肩に駐車していた乗用車など3台を破損した。さらに土石は波よけ擁壁を乗り越えて、湖まで達し、湖岸で釣りをしていた人(1名)が重傷を負う人身被害も起きた。

II 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区分	戸	箇所	被災市町村(戸、箇所)
道路		1	近江八幡市(1)
電気	1		近江八幡市(1)

(イ) 被害金額

区分	金額(千円)
公共土木施設	53,296
〈被害総額〉	53,296

(ウ) 人的被害・車破損

区分	人	台	被災市町村
重傷	1		近江八幡市
車破損		3	近江八幡市

平成 5 年

(1993年)

気象概況

この年の気象の特徴は記録的な冷夏であった。暖冬で始まったが、春から初秋にかけて記録的な低温、長雨（多雨）、日照不足になり、また、台風の上陸も多かった。1月の天気は周期的に変化し、冬型の気圧配置は長続きしなかった。気温は上・中旬はかなり高く、下旬はやや高めであったが28日から29日にかけて、強い冬型の気圧配置となり県下全域で大雪となった。

2月は強い冬型気圧配置となった月初めと下旬に県下全域で積雪があった。7日には近畿地方で春一番が吹き、彦根の最高気温は18.2℃まで上がった。月平均気温は高めで経過したが、月降水量は一部を除き平年より多かった。

3月以降偏西風の流れは、日本付近に寒気が入り易い形に変わり、周期的に低温の時期があった。桜（ソメイヨシノ）は4月3日に開花（平年4月5日）した。4月、5月の気温はやや低めで、降水量はやや少なく菜種梅雨といわれるぐずついた時期はみられなかった。

夏はオホーツク海高気圧の勢力が強く、太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、寒気が流れ込み易くなった。このため、昭和57年（1982）以来の顕著な冷夏となり、又、多雨となったこともあって、農作物等に大きな被害をもたらした。

6月2日に平年（6月8日）より6日早く梅雨入りとなったが、梅雨明けは特定出来なかった。気温は6月はやや低めで、7月、8月はかなり低かった。また、日照時間は短かく、6月は短い記録の第2位、7月、8月は共に最も短い記録となった。

台風は、7月に第4号、第5号、第6号が相次いで上陸し、8月に第11号、9月にも第13号、第14号が上陸した。上陸数は平年（2.8個）の約2倍の6個となった。

秋もほとんど残暑も無いまま、例年より早く秋雨の季節になった。気温は夏に引き続き低温であったが、後半は次第に高くなり11月はかなり高くなった。11月下旬から時々冬型の気圧配置となり、彦根で11月24日に平年より13日早く初雪（平年12月7日）を観測した。

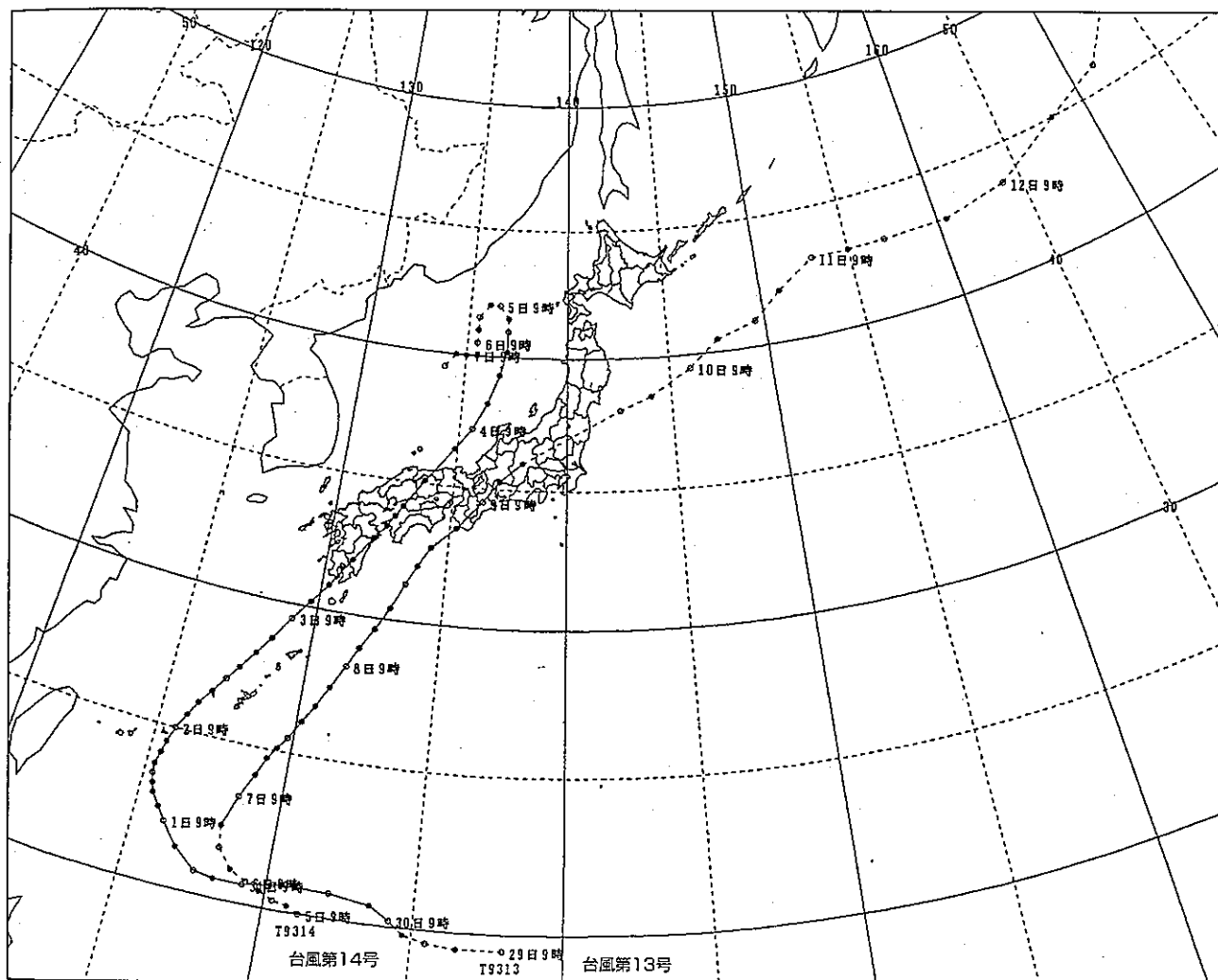
12月も気温は平年より高めで経過したが、下旬は一時強い冬型の気圧配置となり県北部を中心に積雪があった。



台 風

(1) 台風の概況

台風の発生は1~6月で2個と少なかったが、7月に4個、8~10月には毎月5~7個発生し、年間の発生数は平年並みであった。上陸数は6個と、1951年以降では1990年と並ぶ最も多い数である。このうち第4号~6号は7月下旬に、第11、13、14号は8月下旬から9月上旬にかけて立て続けに上陸した。



《彦根地方気象台における極値》

台風番号	最低気圧	最大風速	最大瞬間風速
台風第13号	989.7hPa	SE 12.3m/s	SE 26.1m/s
台風第14号	1002.9hPa	WNW 10.2m/s	WNW 16.5m/s

(2) 災害の状況

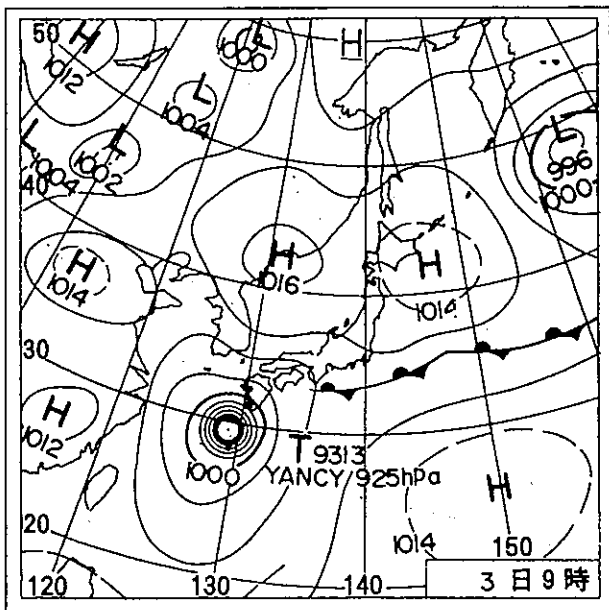
◆台風第13号(9月3日~4日)

I 気象の概要

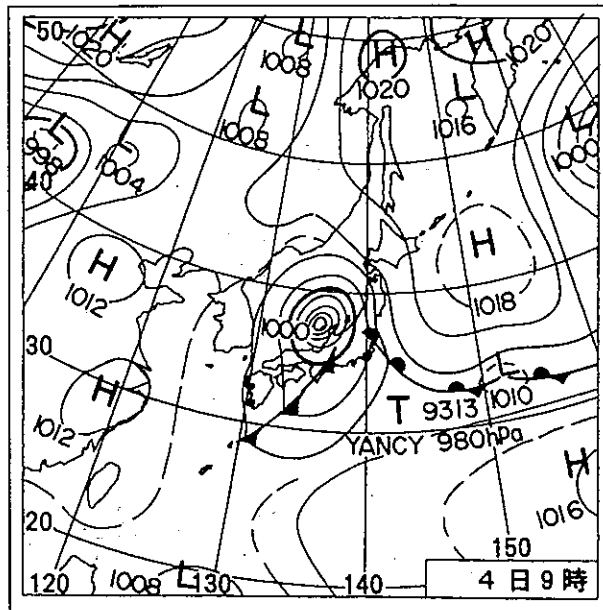
大型で非常に強い台風第13号は、9月3日16時前に薩摩半島に上陸し、九州を北東進した。その後勢力を弱めながら大分県から豊後水道を通り、四国をかすめて9月4日02時頃に広島県福山市に再上陸した。その後次第に加速しながら中国地方を斜めに縦断し、04時過ぎには日本海へ進んだ。台風が彦根に最接近

したのは4日05時から06時頃で、前後の2～3時間湖東・湖北地方を中心に、東から南寄りの風が強まった。4日04時57分に彦根で最大瞬間風速26.1m/sを記録したが、県内全般に雨量は少なく、被害の程度は少なかった。

【9月3日9時の天気図】



【9月4日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 風速、波高概況状況

9月3日の11時頃、戦後最大級に発達した台風第13号は、鹿児島県に上陸、四国、中国地方を北上し、西日本各地に大きな被害を与えながら、4日に日本海に抜け、その後4日の夜、日本海上で温帯低気圧に変わった。

滋賀県では、台風の影響で風が次第に強くなり、彦根地方気象台は3日の昼過ぎに「強風注意報」を発表し、注意を促した。その後、台風は進路をやや北向きに変えつつ北上し接近したため、気象台では3日の夜に「暴風警報・大雨・雷・洪水注意報」を発表した。

その後は台風の直撃は避けられたものの、暴風域に入り強風による影響を大きく受けた。3日の昼過ぎ頃から、風は台風の接近に伴い平均風速5m/s～10m/s、瞬間風速11m/sの東の風が雨とともに次第に強まり、更に3日の深夜から台風の接近に伴い、風向きを東から南東に変えながら風は強くなった。特に、4日の朝方の02時頃から06時頃にかけて平均風速15m/sの暴風が吹き荒れ、更に風向きを南東から南に変え08時過ぎまで平均風速10m/sの暴風が続いた。その後風向きを南から西に変えながら平均風速7m/s前後の強風状態が4日の昼過ぎまで続いた。

中でも台風を中心に最も近かった県北西部の今津町（今津住吉）では、4日05時半前には10分間平均風速26.4m/sを、また、05時半前には、最大瞬間風速34.5m/sの強風を記録した。

その後も、依然として常時平均風速10m/s前後の強風が続き、この状態は4日19時30分に「注意報」が解除されるまで、約20時間余りに及んだ。

このため、台風を中心に最も近かった県北西部の琵琶湖では、南東および東南東の強風により風浪が異常に高くなり、琵琶湖の湖岸が浸食された。

Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
強風注意報	3日15時40分	発表
暴風警報・大雨・雷・洪水注意報	3日20時30分	切替
強風注意報	4日10時00分	〃
〃	4日19時30分	解除

(イ) 気象情報

種 類	発 表 時 刻	種 類	発 表 時 刻
台風に関する情報第1号	3日16時10分	台風に関する情報第5号	4日04時10分
台風に関する情報第2号	3日19時00分	台風に関する情報第6号	4日07時40分
台風に関する情報第3号	3日22時30分	台風に関する情報第7号	4日10時30分
台風に関する情報第4号	4日01時10分		

(ウ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備・切替・解除
第2号警戒体制	3日20時30分	配備
〃	3日10時00分	解除

Ⅳ 被害の状況

(ア) 住家被害

区 分	棟	世帯	人	被災市町村(棟・世帯・人)
一部破損	1	1	3	甲良町(1・1・3)
非住家 公共建物	1			甲良町(1)

(ウ) 被害金額

区 分	金額(千円)
農林水産業施設	3,000
公共土木施設	252,835
その他の公共施設	100
〈小 計〉	255,935
農産被害	75,852
その他	30
《被害総額》	331,817

(イ) 農林水産・土木関係被害

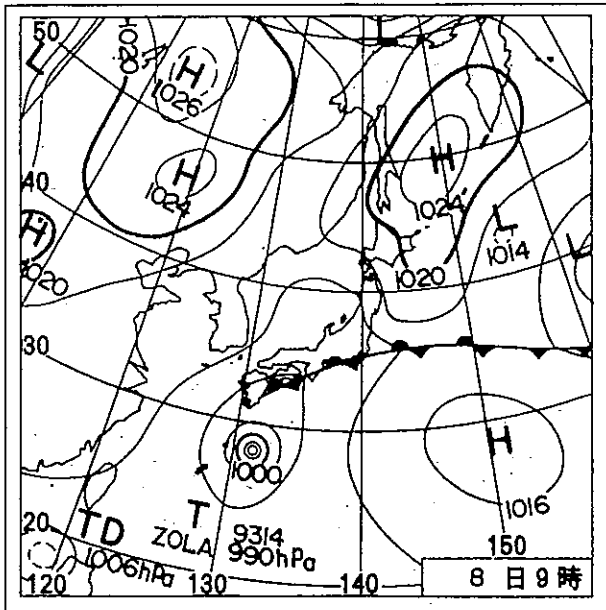
区 分	ha	箇所	被災市町村(ha・箇所)
畑 冠水	7.5		甲良町
河 川		4	マキノ町(1) 高島町(1) 新旭町(1) 安曇川町(1)

◆台風第14号(9月8日~9日)

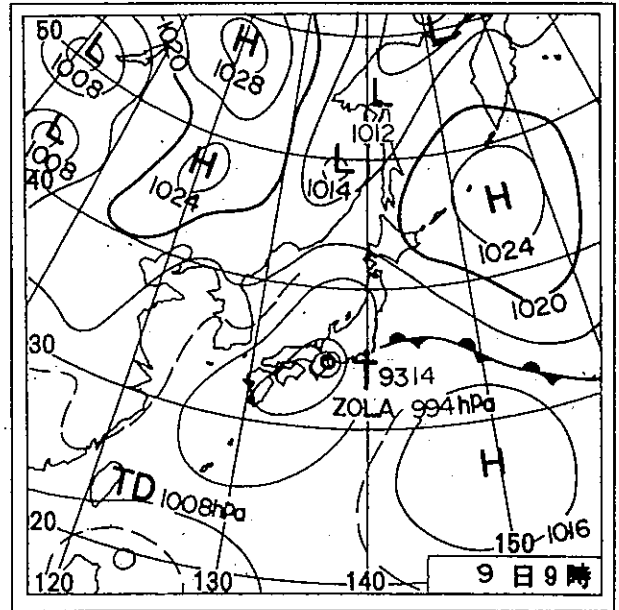
I 気象の概要

9月5日09時に沖の鳥島の西の海上で発生した弱い熱帯低気圧は西北西に進み、7日03時に沖縄の南海上で台風第14号となった。この頃から進路を北東に変え、南西諸島の東の海上を進み、8日15時には小型で並みの強さの台風となった。その後も北東に進み、9日06時過ぎにはごく小さい弱い勢力で和歌山県南部に上陸した。9日15時には長野県南部で温帯低気圧に変わり、日本の東海上へ進んだ。彦根における最低気圧は1002.9hPa(9日10時13分)、最大風速は西北西の風10.2m/s(9日13時30分)、最大瞬間風速は西北西の風16.5m/s(9日12時35分)であった。

【9月8日9時の天気図】



【9月9日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

台風の影響で8日夜半過ぎから雨が降り出し、台風の接近に伴って風と共に次第に強くなり、鈴鹿山系を中心に集中豪雨に見舞われた。

最大時間雨量は、甲賀町（大原）36.0mm、水口町（水口）で50.0mm、土山町（大河原）で42.0mm、また最大24時間雨量は、甲賀町（大原）で91.0mm、水口町（水口）で88.0mm、土山町（大河原）で127.0mmと約12時間という短時間に80mmを越える大雨を記録した。

この豪雨により、これらの地域では、河川、道路などの公共土木施設の災害をはじめ、冠水による鉄道の運休、道路の通行止め及び家屋の床下浸水などの被害が発生した。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

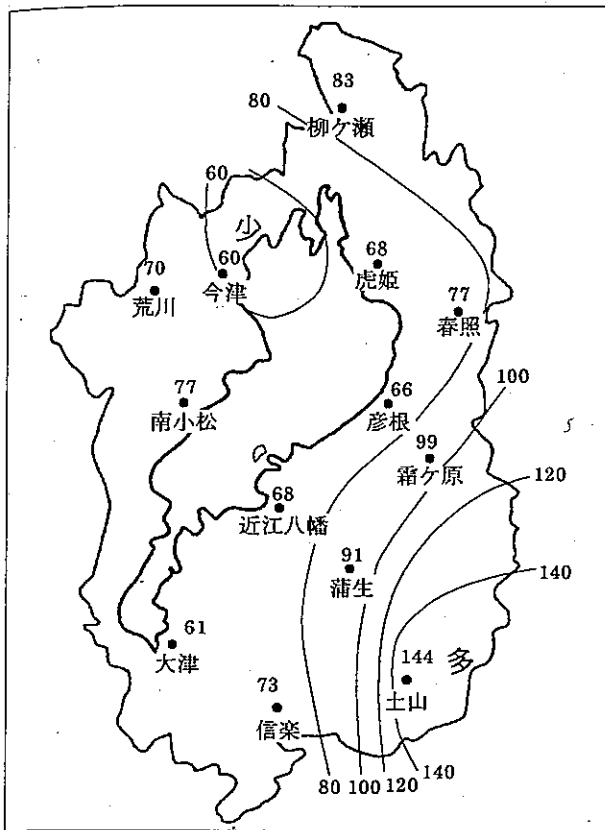
地域気象観測所における降水量

(9月8日～9日)

観測所	日	8日	9日	計
柳ヶ瀬		48	35	83
今津		34	26	60
虎姫		32	36	68
荒川		43	27	70
春照		24	53	77
南小松		46	31	77
彦根		29	37	66
近江八幡		32	36	68
霜ヶ原		36	63	99
蒲生		35	56	91
大津		34	27	61
信楽		39	34	73
土山		50	94	144

【降水量分布図】
(9月8日~9日)

単位(mm)



Ⅲ 出水の状況

台風の影響で8日夜半過ぎから雨が降り出し、台風の接近に伴って風と共に次第に強くなり、鈴鹿山系を中心に集中豪雨となった。特に、甲賀地域の河川は、9日未明より増水し、野洲川などで、通報水位、警戒水位を越える異常な水位となった。

《主要河川水位表》

河川名	観測所	直轄県土木事務所名	警戒水位 (m)	最高水位 (m)	日 時
野 洲 川	柏貴	青土ダム管理事務所	0.5	0.69	9月9日12時

Ⅳ 気象官署のとった処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
雷注意報	8日01時50分	発表
強風注意報	8日21時30分	切替
大雨・雷・強風・洪水注意報	9日04時30分	〃
大雨・洪水警報・雷・強風注意報	9日06時50分	〃
強風注意報	9日11時30分	〃
〃	9日18時40分	解除

(イ) 気象情報

種 類	発 表 時 刻	種 類	発 表 時 刻
台風に関する情報第1号	8日16時20分	台風に関する情報第5号	9日07時15分
台風に関する情報第2号	8日19時00分	台風に関する情報第6号	9日08時25分
台風に関する情報第3号	8日22時10分	台風に関する情報第7号	9日10時10分
台風に関する情報第4号	9日04時00分	台風に関する情報第8号	9日12時00分

(ウ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配 備 ・ 切 替 ・ 解 除
第1号警戒体制	8日04時30分	配備
第2号警戒体制	8日06時50分	切替
	8日11時30分	解除

V 被害の状況

(ア) 住家被害

区 分	棟	世帯	人	被災市町村 (棟・世帯・人)
床下浸水	14	14	46	甲南町(3・3・9) 秦荘町(3・3・10) その他県内各所(8・8・27)
非住家 その他	3			県内各所

(イ) 農林水産・土木関係被害

区 分	箇所	被災市町村 (箇所)
学 校	1	水口県事務所管内
道 路	6	甲南町(1) 土山町(1) 秦荘町(1) 日野町(3)
河 川	9	石部町(2) 甲西町(1) 水口町(1) 甲賀町(5)
鉄道不通	1	-

(ウ) 被害金額

区 分	金額 (千円)
公立文教施設	5,356
農林水産業施設	108,500
公共土木施設	200,965
〈小 計〉	314,821
農産被害	38,703
林産被害	316,500
〈被害総額〉	670,024

2

豪 雨

(1) 豪雨の状況

19日昼過ぎを中心に、南小松、柳ヶ瀬、今津、虎姫で1時間に20mm以上の短時間強雨を伴って大雨となった。

(2) 災害の状況

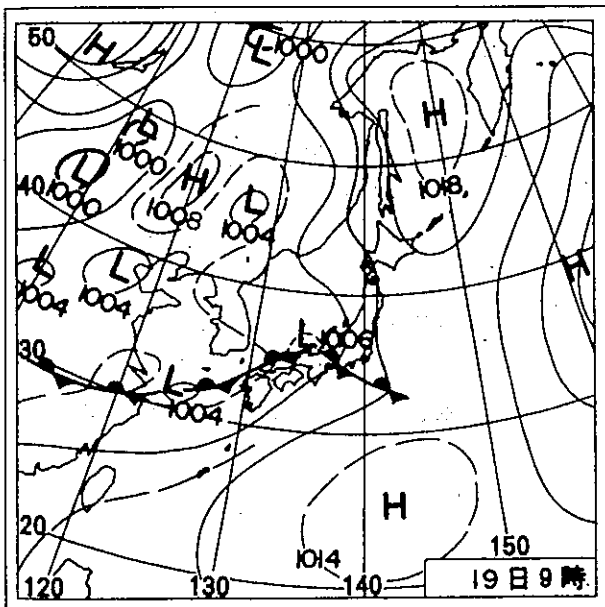
◆大雨(6月19日)

I 気象の概要

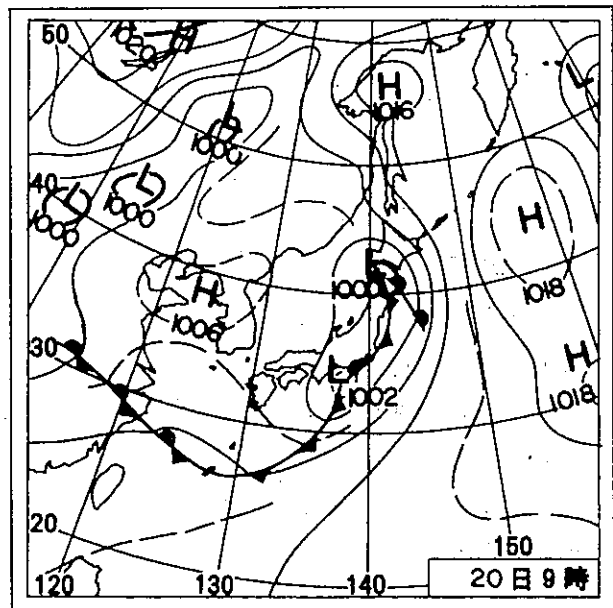
梅雨前線は、近畿から山陰沿岸を経て東シナ海に伸び、活動が活発化して南下した。

この大雨は、前線に向かって暖湿流が入り、強雨域は淀川沿いに京都府南部から滋賀県に移動した。

【6月19日9時の天気図】



【6月20日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

6月18日の夜半過ぎから降り始めた雨は、19日の昼過ぎより激しくなり、比良山系において、時間雨量が20mmを越える強い雨を記録した。中でも、湖西を中心とする地域は激しい雨に見舞われた。

なお、最大時間雨量は次のとおりである。

大津市(途中) 38mm、志賀町(南小松) 34mm、余呉町(余呉) 25mm、余呉町(椿坂) 23mm、今津町(今津) 25.5mm、安曇川町(安曇川) 21.5mm。

また、最大24時間雨量も、志賀町(南小松) 144.5mm、大津市(途中) 132.0mm、安曇川町(安曇川) 89.5mmの豪雨を記録した。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

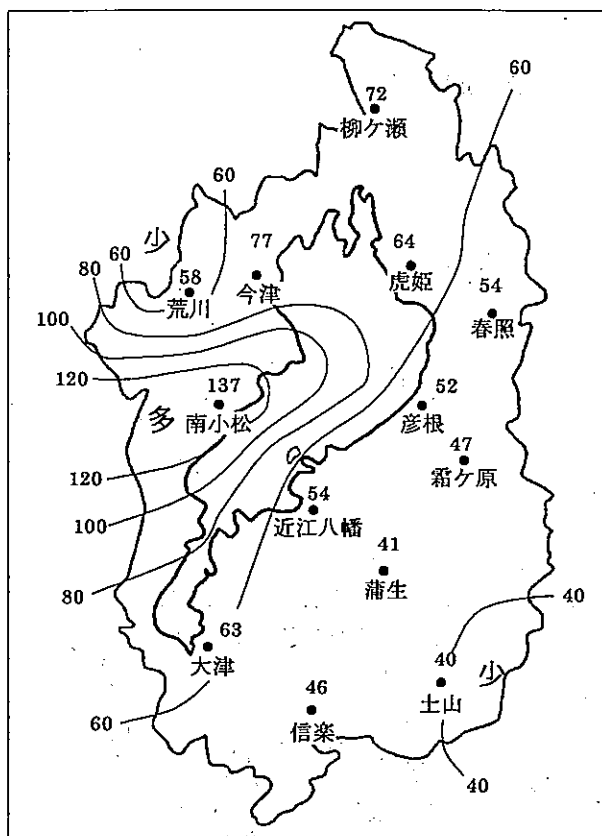
(6月19日)

観測所	日	19日
柳ヶ瀬		72
今津		77
虎姫		64
荒川		58
春照		54
南小松		137
彦根		52
近江八幡		54
霜ヶ原		47
蒲生		41
大津		63
信楽		46
土山		40

【降水量分布図】

単位 (mm)

(6月19日)



Ⅲ 出水の状況

6月2日に梅雨入りしてから、日本列島の南岸上に停滞していた梅雨前線が北上し、南の高温多湿の気流が大量に流れ込み活発化したため、時折雷を伴い18日夜半すぎから雨が降り始めた。19日昼過ぎから時間雨量20mm～38mmの強い雨が断続的に降り、18日の降り始めからの連続雨量も湖西地域を中心に80mmを越える豪雨となった。

このため、これらの地域の小河川では、19日の昼過ぎ頃から増水し、河岸および道路の欠損等で公共土木施設に被害が発生した。

Ⅳ 気象官署のとった処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
雷注意報	19日06時50分	発表
大雨・雷・洪水注意報	19日11時30分	切替
大雨・洪水警報・雷注意報	19日13時50分	〃
大雨・雷・洪水注意報	19日18時30分	〃
〃	19日22時00分	解除

(イ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備 切替 解除
第1号警戒体制	19日11時30分	配備
第2号警戒体制	19日13時50分	切替
第1号警戒体制	19日18時30分	〃
〃	19日22時00分	解除

V 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

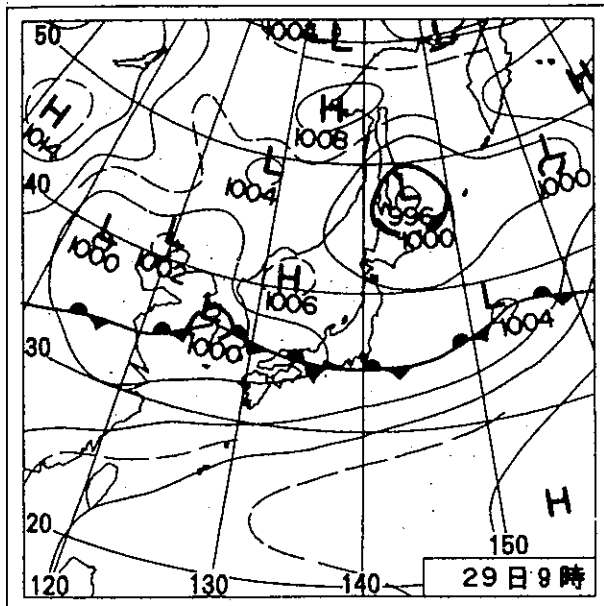
区分	箇所	被災市町村
道路	1	余呉町
河川	1	高島町

◆大雨(6月29日)

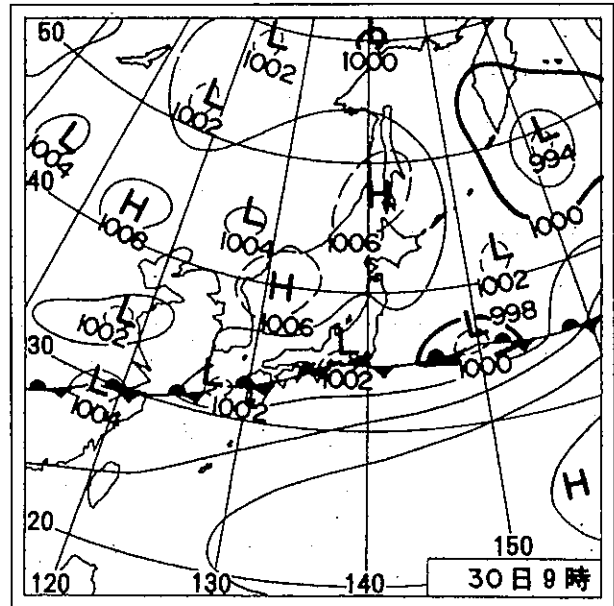
I 気象の概況

近畿地方北部に停滞した梅雨前線の活動が活発となり、6月29日から30日にかけて滋賀県全域に断続的な降雨となった。前線南下に伴い29日昼頃から夕方と、夜半頃の局地的な強雨で、柳ヶ瀬は29日14時までの1時間雨量が23mmであった。霜ヶ原では24時に43mm、30日2時には信楽で21mm、土山で25mmの大雨となった。降り始めからの総雨量も、各観測所とも100mm以上の所が多く、近江八幡では158mmを記録した。

【6月29日9時の天気図】



【6月30日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

日本列島の南岸上に停滞していた梅雨前線が北上し、南の高温多湿の気流が大量に流れ込み活発化したため、6月28日昼過ぎから時折雷を伴い降り始めた雨は、29日昼頃から県下の全域で強くなり、夜半すぎから時間雨量10～50mm前後の強い雨が断続的に降り続いた。特に、湖北、湖西及び湖東地域において、時間雨量20mm以上の激しい降雨となった。なお、最大時間雨量及び最大24時間雨量は次のとおりである。最大時間雨量湖東町（宇曾川）46.5mm、土山町（大河原）33mm、余呉町（椿坂）22mm、今津町（河内谷）22mm、最大24時間雨量大津市（途中）108mm、永源寺町（政所）175mm、木之本町（木之本）104mm、木之本町（杉野）115mm、余呉町（椿坂）112mm、今津町（今津）80.5mm。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

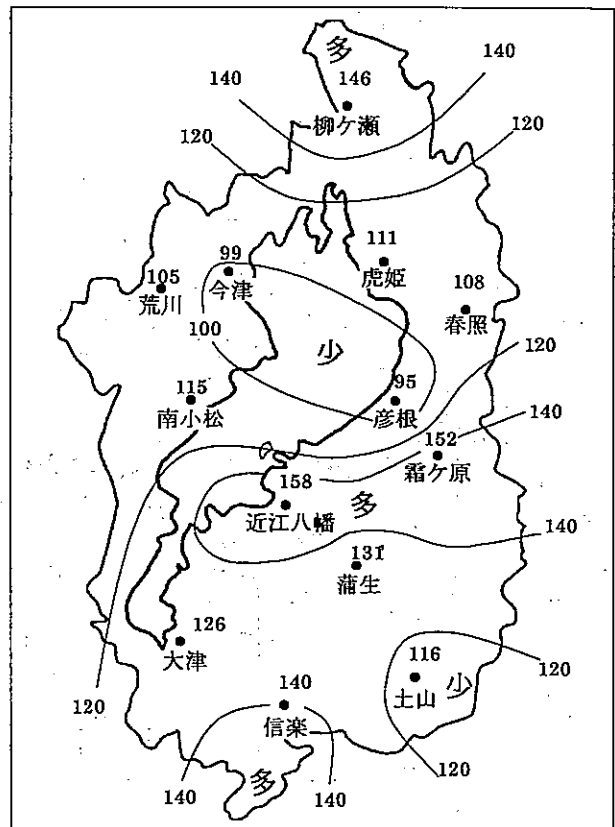
(6月29日～30日)

観測所	日	29日	30日	計
柳ヶ瀬		121	25	146
今津		74	25	99
虎姫		81	30	111
荒川		76	29	105
春照		77	31	108
南小松		74	41	115
彦根		63	32	95
近江八幡		101	57	158
霜ヶ原		103	49	152
蒲生		58	73	131
大津		55	71	126
信楽		43	97	140
土山		39	77	116

【降水量分布図】

単位 (mm)

(6月29日～30日)



III 出水の状況

この豪雨による出水により、これらの地域の河川では29日の昼過ぎ頃から増水し、1級河川の日野川、余呉川などで、通報水位、警戒水位を突破するとともに、小河川の氾濫が相次いだ。

また、直轄河川の瀬田川においても、水防警報を発令し、洪水に対する警戒を促した。

このために、八日市市、近江八幡市、安土町で床下浸水、道路の冠水等による通行止め、田畑の冠水等の一般被害をはじめ、木之本土木、今津土木事務所管内では河岸および道路の欠損等で公共土木施設に被害が発生した。

《主要河川水位表》

河川名	観測所	直轄 警 告 所 名	警戒水位 (m)	最高水位 (m)	日 時
余呉川	布施	木之本土木	1.3	1.34	29日24時

IV 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
雷注意報	29日10時00分	発表
大雨・雷・洪水注意報	29日13時30分	切替
大雨・洪水警報・雷注意報	30日00時15分	〃
大雨・雷・洪水注意報	30日03時40分	〃
大雨・洪水注意報	30日10時30分	〃
〃	30日20時30分	解除

(イ) 気象情報

種 類	発 表 時 刻
大雨に関する情報第1号	29日21時40分

(ウ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	29日13時30分	配備
第2号警戒体制	30日00時15分	切替
第1号警戒体制	30日03時40分	〃
〃	30日20時30分	解除

V 被害の状況

(ア) 住宅被害

区 分	棟	世帯	人	被災市町村
床下浸水	7	7	21	県内各所

(イ) 農林水産・土木関係被害

区 分	箇所	被災市町村(箇所)
道 路	20	県内各所
河 川	8	高月町(1) 余呉町(2) 木之本町(1) 今津町(4)
崖くずれ	4	永源寺町(2) 野洲町(1) 大津町(1)
ブロック塀	1	水口県事務所管内(1)

(ウ) 被害金額

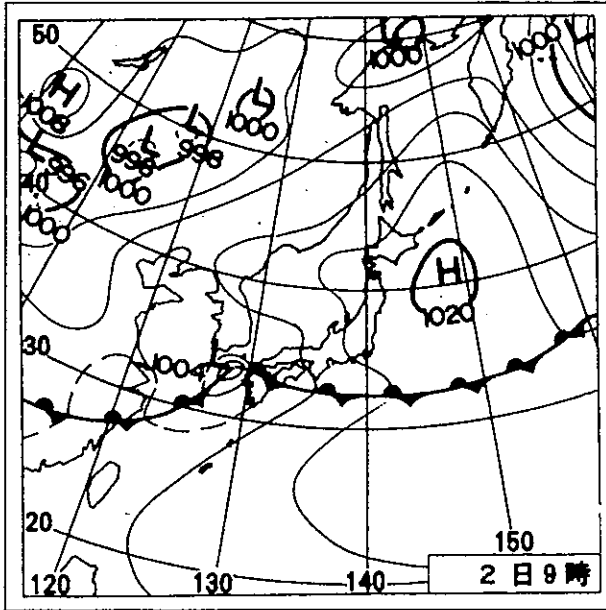
区 分	金額(千円)
農林水産業施設	85,561
公共土木施設	280,239
〈小 計〉	365,800
林産被害	345,700
その他	300
〈被害総額〉	711,800

◆梅雨前線による大雨(1)(7月2日~3日)

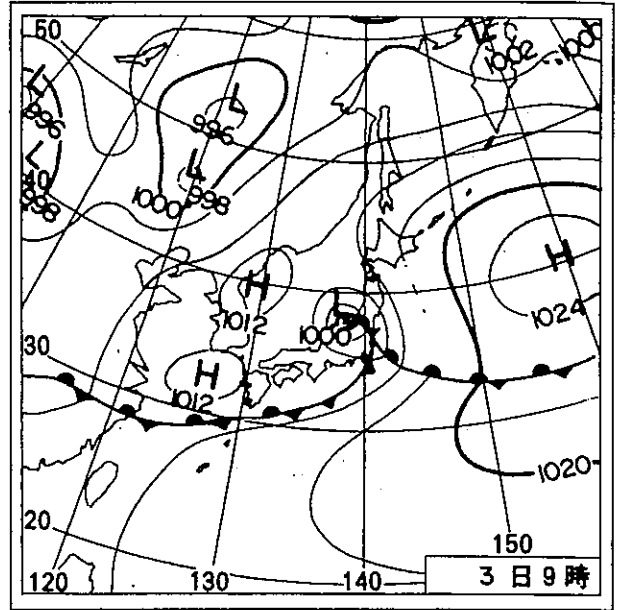
I 気象の概要

梅雨前線上の瀬戸内付近の低気圧が、7月2日夕方頃から夜半過ぎにかけて東北東進し、7月3日03時には若狭湾に達した。この低気圧が接近する夜半頃に強雨となり、南小松では降り始めから降り終わりまでの総雨量が113.0mmとなった。

【7月2日9時の天気図】



【7月3日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

梅雨前線上の瀬戸内付近の低気圧が東北東進して、3日03時には若狭湾に達した。この低気圧が接近した夜半頃に強雨となった。2日から3日にかけての降水量は南小松で100mmを超えた。

《气象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

(7月2日01時～3日24時)

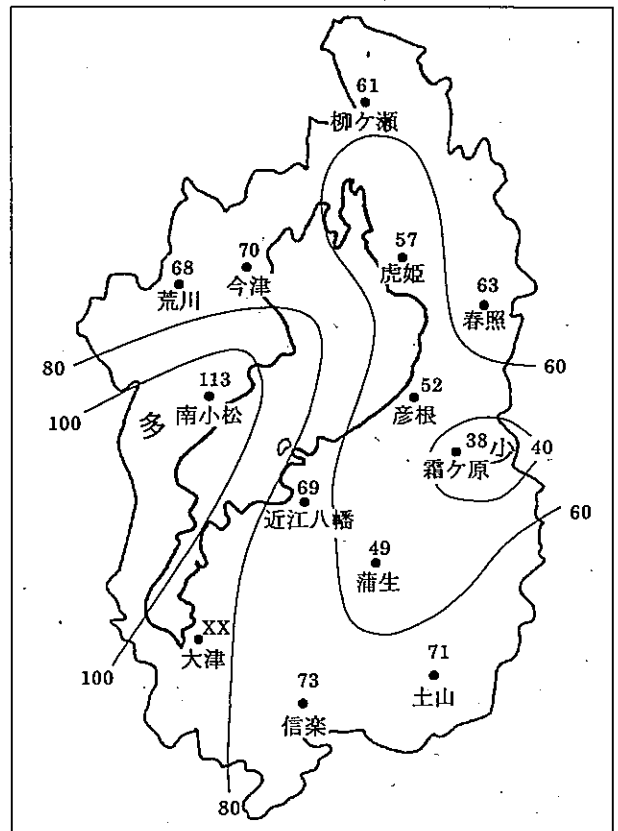
観測所	日	2～3日
柳ヶ瀬		61
今津		70
虎姫		57
荒川		68
春照		63
南小松		113
彦根		52
近江八幡		69
霜ヶ原		38
蒲生		49
大津		XX
信楽		73
土山		71

XX=欠測

【降水量分布図】

単位 (mm)

(7月2日～3日)



Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
大雨・雷・洪水注意報	2日16時50分	発表
〃	3日06時40分	解除

(イ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	2日16時50分	配備
〃	3日06時40分	解除

Ⅳ 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

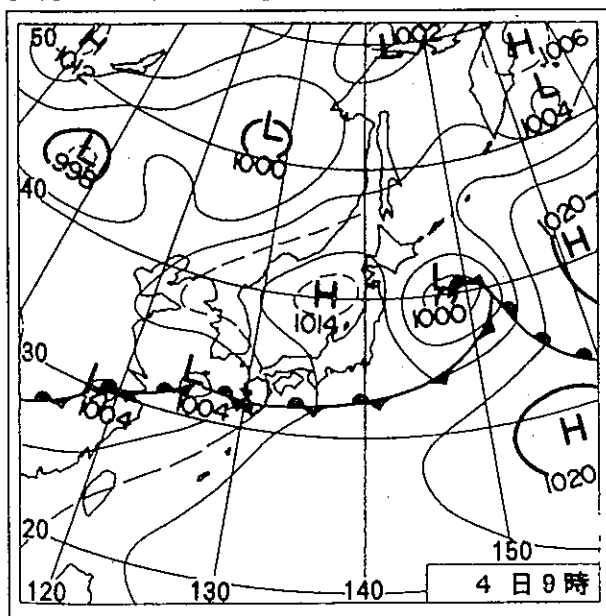
区 分	戸・箇所	被災市町村(箇所)及び被害の内容
土砂被害	4	甲賀町(4) 土砂崩れ
道路被害	1	西浅井町(県道葛箆尾崎大浦線(全面通行止)) 法面崩壊
電力関係被害	100	西浅井町 電柱倒壊により2時間停電

◆梅雨前線による大雨(2)(7月4日~5日)

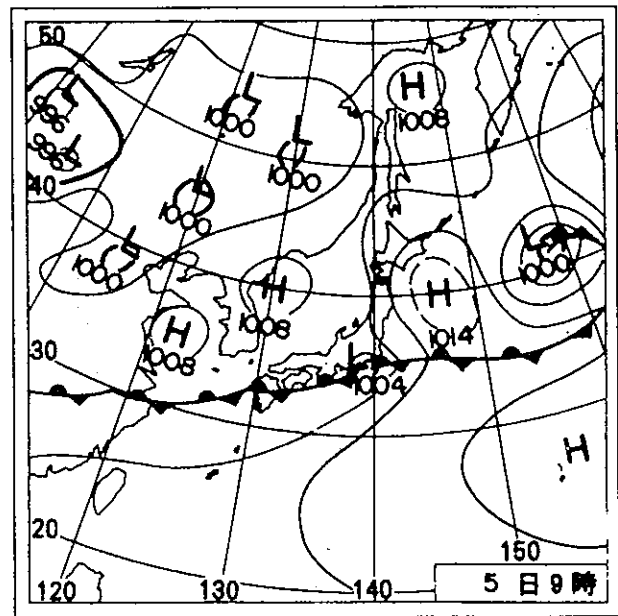
I 気象の概要

梅雨前線上の瀬戸内付近の低気圧が、7月4日夜半前から7月5日夜半過ぎにかけて、滋賀県に接近したため、夜半を中心に県内各地で大雨となった。特に南小松、近江八幡、蒲生で1時間10mm以上の降雨が4~5時間続き、南小松、近江八幡で100mm以上を記録した。被害の大きかった大津市と近江八幡付近では、6月末からの先行降雨により地盤が緩んでいたところに、今回の短時間降雨の影響が重なり、被害が発生した。

【7月4日9時の天気図】



【7月5日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

7月4日頃から再び梅雨前線の北上に伴い活動が活発になり、前線の影響で4日16時頃から降り始めた雨は、その後は小康状態であったが、4日夜半すぎから5日の未明にかけて20mm以上の強い雨が連続して降り続いた。特に、湖西、湖南、甲賀地域を中心に大雨になり、最大時間雨量では、大津市（堅田）で26mm、大津市（途中）で24mm、草津市（草津）で22mm、野洲町（野洲）で20.5mmという強い雨を記録した。また、最大24時間雨量では、大津市（堅田）で152.5mm、大津市（途中）で143.5mm、草津市（草津）で120.5mm、野洲町（野洲）で110mm、水口町（水口）で85mm、信楽町（長野）で82mmの豪雨を記録した。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

(7月4日01時～5日24時)

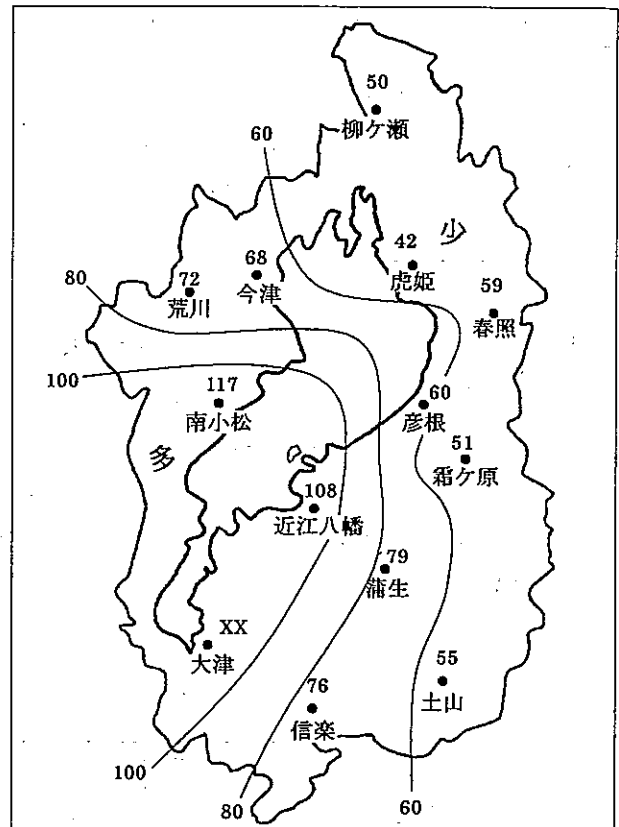
観測所	日	4～5日
柳ヶ瀬		50
今津		68
虎姫		42
荒川		72
春照		59
南小松		117
彦根		60
近江八幡		108
霜ヶ原		51
蒲生		79
大津		XX
信楽		76
土山		55

XX=欠測

【降水量分布図】

単位 (mm)

(7月4日～5日)



III 出水の状況

この豪雨の出水により、これらの地域の河川では、5日の未明頃から増水し、1級河川の日野川、草津川、大戸川で通報水位、警戒水位を突破するとともに、小河川の氾濫が相次いだ。

このために、大津市で床下浸水、道路の冠水等による通行止め、田畑の冠水等の一般被害を始め、大津土木、草津土木、水口土木事務所管内では河岸および道路の欠損等で公共土木施設に被害が発生した。

IV 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
大雨・洪水注意報	4日22時05分	発表
大雨・洪水警報	5日03時20分	切替
大雨・洪水注意報	5日06時10分	〃
〃	5日11時00分	解除

(イ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	4日22時05分	配備
第2号警戒体制	5日03時20分	切替
第1号警戒体制	5日06時10分	〃
〃	5日11時00分	解除

V 被害の状況

(ア) 住家被害

区 分	棟	世帯	人	被災市町村(棟・世帯・人)	
住宅被害	全壊	1	1	3	大津市(1・1・3)
	半壊	2	2	5	大津市(2・2・5)
	床上浸水	2	2	5	大津市(2・2・5)
	床下浸水	14	14	49	大津市(2・12・-) 大津市以外の県内各所(12・2・-)
非住家	その他	2			大津市(2)

(イ) 農林水産・土木関係被害

区 分	回線・戸	箇所	被災市町村(回線・戸・箇所)
道 路		34	大津市(26) 草津市(1) 信楽町(1) 甲南町(3) 志賀町(2) 近江八幡市(1) 伊吹町(1)
河 川		28	大津市(12) 草津市(5) 守山市(3) 甲西町(5) 水口町(1) 信楽町(2)
崖くずれ		12	県内各所
電 話	15		大津市(15)
電 気	5		大津市(5)

(ウ) り災者数・り災世帯数

名 称	り災規模	被災市町村
り災世帯数	世帯 5	大津市
り災人数	人 13	大津市

(工) 被害金額

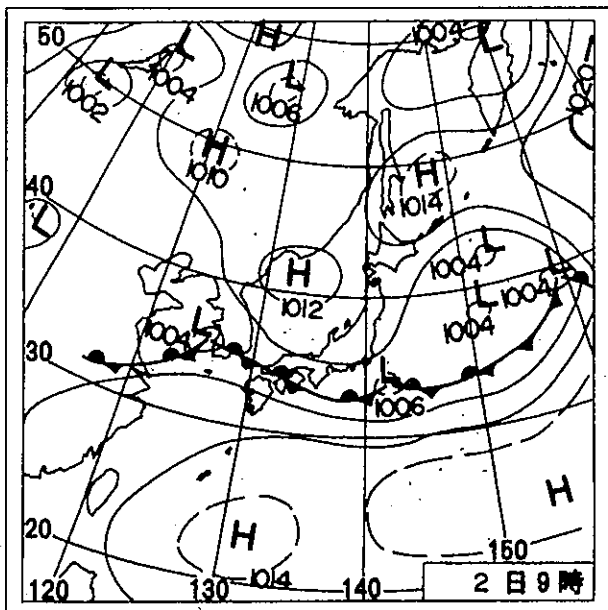
区 分	金額(千円)
農林水産業施設	148,000
公共土木施設	429,617
〈小 計〉	577,617
農産被害	34,693
その他	190,000
《被害総額》	802,310

◆大雨(8月2日~3日)

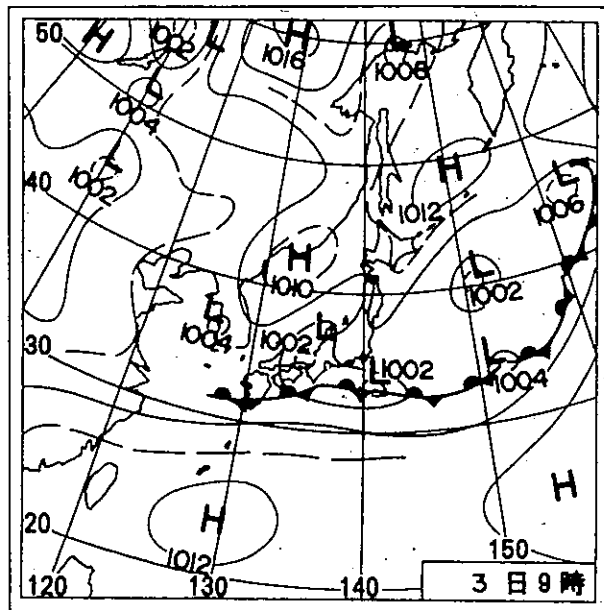
I 気象の概要

2日から3日にかけて、西日本に停滞する前線上を低気圧が近畿地方から北陸地方へゆっくり進み、また、前線が本州南岸に停滞した。

【8月2日9時の天気図】



【8月3日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

滋賀県では2日夜から3日にかけて短時間強雨を伴う大雨となった。3日04時までの1時間に近江八幡29mm、信楽22mm、06時までの1時間に大津20mm、12時までの1時間に大津33mmの短時間強雨を伴い、降水量は大津119mm、近江八幡106mmなどであった。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

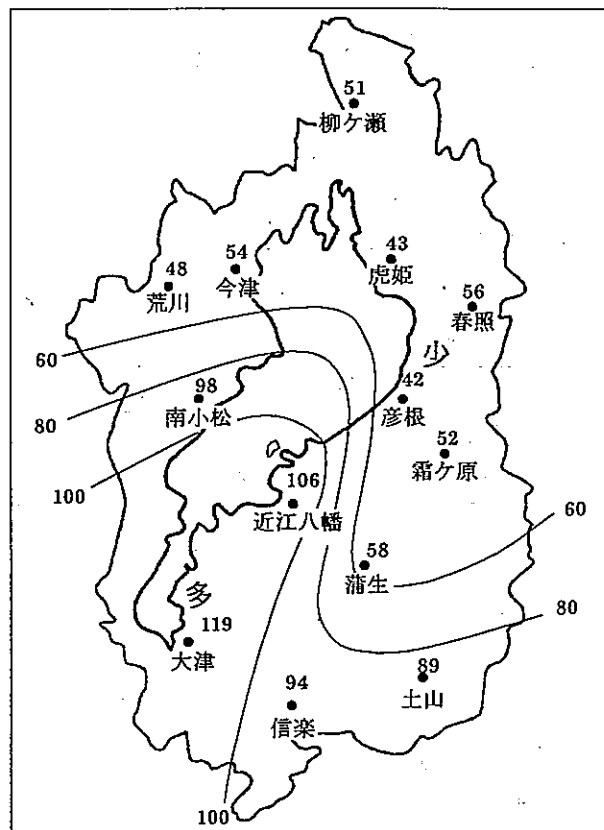
(8月2日01時～3日24時)

観測所	日	2~3日
柳ヶ瀬	瀬	51
今津	津	54
虎姫	姫	43
荒川	川	48
春照	照	56
南小松	松	98
彦根	根	42
近江八幡	幡	106
霜ヶ原	原	52
蒲生	生	58
大津	津	119
信楽	楽	94
土山	山	89

【降水量分布図】

単位 (mm)

(8月2～3日)



Ⅲ 出水の状況

7月29日に梅雨明けしてからも、不安定な気圧配置が続き、湖西地域を中心に2日夜半頃から雷を伴って降り始めた雨は、2日夜半から3日未明にかけて時間雨量20mm以上の降雨となった。3日朝方には、一旦局地的な大雨は収まったかのようにみえたが、再び大気の状態が不安定になり、昼頃から時間雨量20mm以上の強い雨が、湖南・甲賀地域を中心に短時間に激しく降り、2日の降り始めから20時間余りで80mmの豪雨となった。

この豪雨でこれらの地域の小河川では、3日朝方頃から増水し、水口土木事務所管内では河岸および道路の欠損等の公共土木施設に被害が発生した。

Ⅳ 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区分	箇所	被災市町村(箇所)
道路	1	信楽町(1)
橋りょう	1	信楽町(1)
河川	2	甲西町(1) 信楽町(1)

(イ) 被害金額

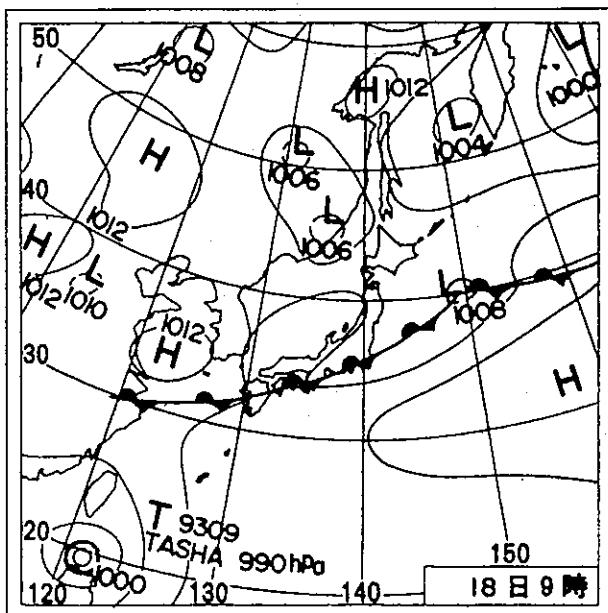
区分	金額(千円)
公共土木施設	23,067
〈小計〉	23,067
〈被害総額〉	23,067

◆大雨(8月18日~19日)

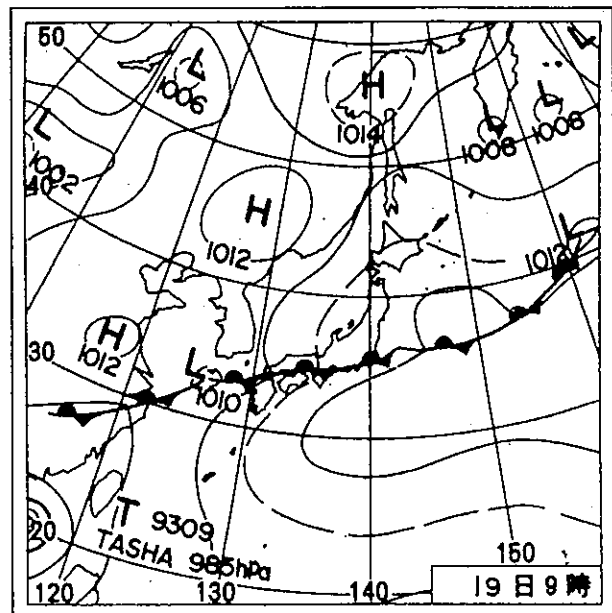
I 気象の概要

西日本に停滞する前線の活動が18日夜から活発となり、大津で19時までの1時間に27mm、南小松で22時までの1時間に29mmなどの短時間強雨となった。19日の日中は小康状態であったが、夜には一時雨となり雷を伴った。

【8月18日9時の天気図】



【8月19日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

18日夕方から夜半過ぎにかけて、雷を伴って局地的に雨が降った。特に湖西、湖東地域を中心に時間雨量20mm以上の強いゲリラ的な雨に見舞われ、最大時間雨量は草津市（草津）30mm、彦根市（霜ヶ原）で21mmの激しい雨を短時間に記録した。

このゲリラ的な豪雨により、湖東地域の多賀町で道路の路肩が崩れる等、公共土木施設に被害が発生した。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

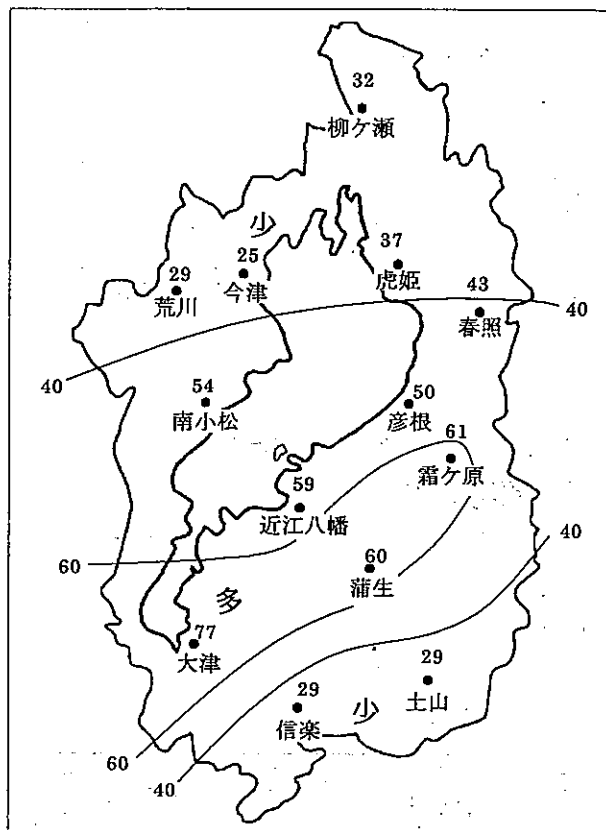
(8月18日～19日)

観測所	日	18日	19日	計
柳ヶ瀬		21	11	32
今津		21	4	25
虎姫		34	3	37
荒川		26	3	29
春照		39	4	43
南小松		52	2	54
彦根		45	5	50
近江八幡		48	11	59
霜ヶ原		50	11	61
蒲生		54	6	60
大津		69	8	77
信楽		28	1	29
土山		26	3	29

【降水量分布図】

単位 (mm)

(8月18日～19日)



III 被害の状況

(イ) 農林水産・土木関係被害

区分	箇所	被災市町村
道路	2	多賀町

(ウ) 被害金額

区分	金額 (千円)
公共土木施設	25,664
〈小計〉	25,664
《被害総額》	25,664

3

強 風

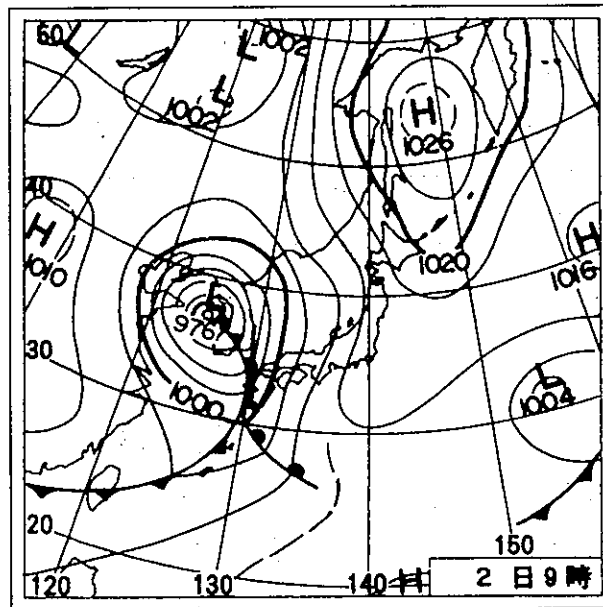
◆強風(6月2日~3日)

I 気象の概要

上海の北にあった低気圧が発達しながら北東に進み、2日には朝鮮半島付近で台風並みに発達。この低気圧の影響で、午後から次第に東から南よりの風が強まり夜半過ぎまで続いた。

彦根では 最大風速 東南東 9.4m/s
最大瞬間風速 南南東 21.4m/s を観測した。

【6月2日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

種 類	棟	被 災 市 町 村
農業用パイプハウスの全半壊	176	大津市・草津市・守山市・近江八幡市・八日市市・長浜市・栗東町・中主町・野洲町・安土町・竜王町・能登川町・愛東町・秦荘町・浅井町・甲良町・米原町

(イ) その他被害

種 類	被 害 内 容
農機具小屋の倒壊	6月2日21時半頃、愛知郡湖東町湯屋の国道307号線沿いで、農機具小屋が倒れ一時通行止めになるなど被害が出た
セイルボートが転倒	6月2日13半頃、野洲郡中主町吉川から約1キロ沖の琵琶湖で、会社員のセイルボートが転倒。風にあおられて沖合に流されたが、約30分後に救助された。

Ⅲ 被害金額

(ア) 施設被害

種類・被害施設名	全 壊		大 破		中 破		小 破		計		
	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	
耕種関係	パイプハウス	1	986					7	1,734	8	2,720
	育苗ハウス					13	700			13	700
	計	1	986			13	700	7	1,734	21	3,420
園芸関係	パイプハウス			1	85					1	85
	育苗ハウス			1	5,031	1	120			2	5,151
	計			2	5,116	1	120			3	5,236
合 計	1	986	2	5,116	14	820	7	1,734	24	8,656	

被害施設	件数	被害金額(千円)	被害市町村
パイプの破損他	179	26,749	大津市・草津市・守山市・栗東町・中主町・野洲町・八日市市・安土町・愛東町・秦荘町・甲良町・長浜市・米原町・浅井町・能登川町

(イ) 農作物被害

被害対象	被害程度	被害面積(ha)	被害金額(千円)	被害地域
水 稻	なし	なし	なし	なし
小 麦	冠水	0.5	105	栗東町
大 豆	冠水	0.9	1,020	栗東町
野 菜	浸水	2,445.8	7,873	中主町・野洲町・甲良町・浅井町・安曇川町・高月町
果 樹	落果	53.72	132,153	栗東町・愛東町・秦荘町・浅井町
花 き		0.062	770	愛東町・甲良町

◆風浪(3月28日~29日)

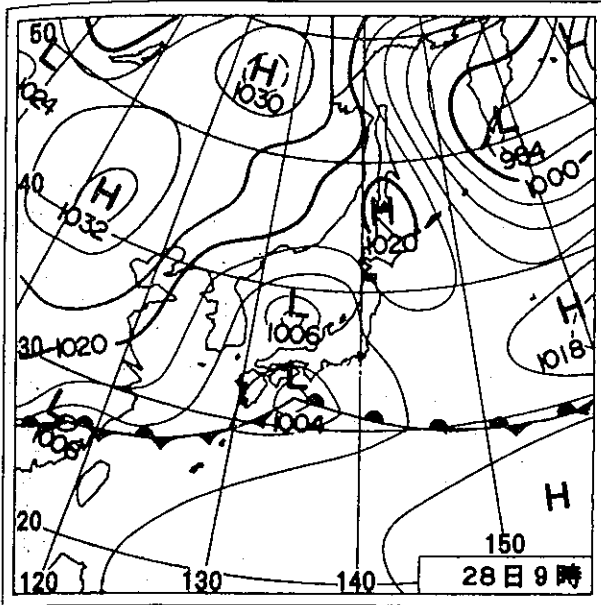
I 気象の概要

28日は本州の南岸を低気圧が発達しながら東に進み、29日は強い冬型の気圧配置となって、雪や雨が降り風も強く寒い一日となった。

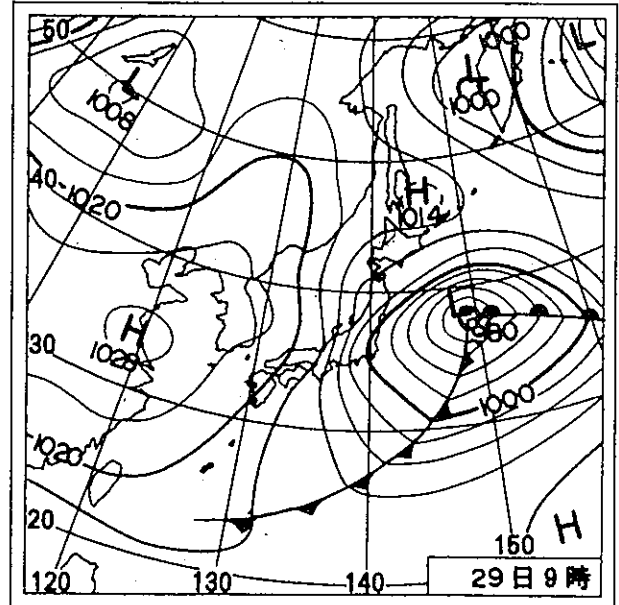
彦根では29日 最大風速 西北西13.2m/s

最大瞬間風速 北西25.2m/s を観測した。

【3月28日9時の天気図】



【3月29日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区分	箇所	被災市町村(箇所)
河川	3	中主町(1) 彦根市(1) 長浜市(1)

(イ) 被害金額

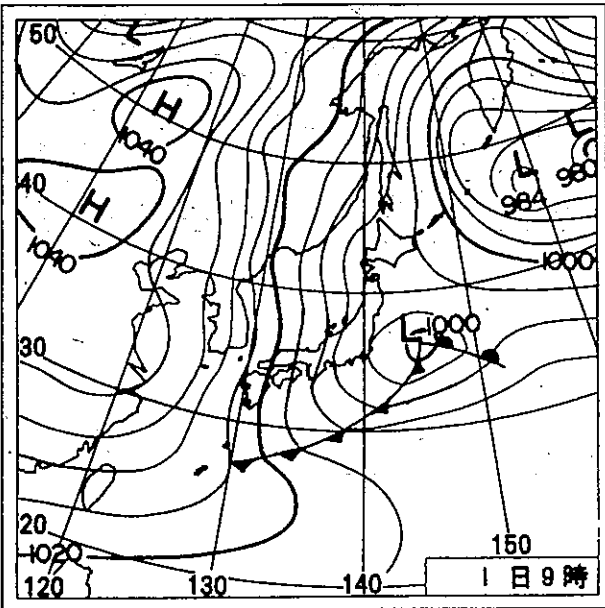
区分	金額(千円)
公共土木施設	337,324
《被害総額》	337,324

◆大雪（2月2日）

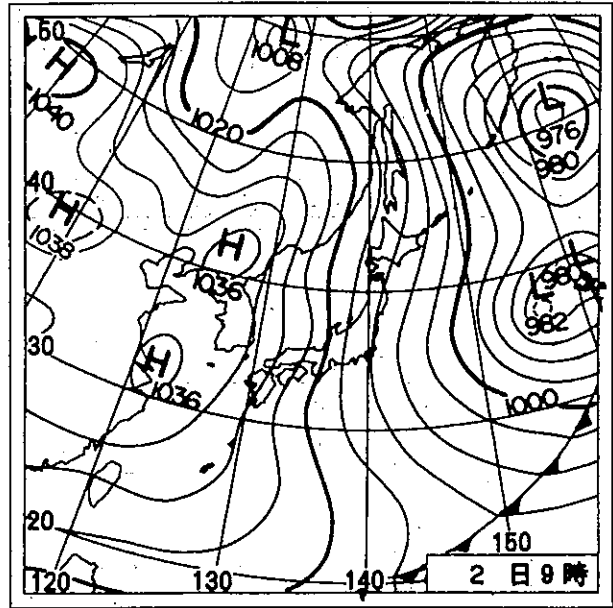
I 気象の概要

2月1日から2日にかけて大陸の高気圧が張り出し冬型気圧配置が強まった。これに伴い第1級の寒気団（500hPaの寒気を中心-41℃）が南下し、彦根の上空でも500hPaで-35℃、850hPaで-12℃に達した。日本海の雪雲は滋賀県を通り伊勢湾に抜けるコースとなったため、特に県南部は大雪となった。

【2月1日9時の天気図】



【2月2日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雪の状況

2日11時に土山で65cmの最深積雪を記録した。

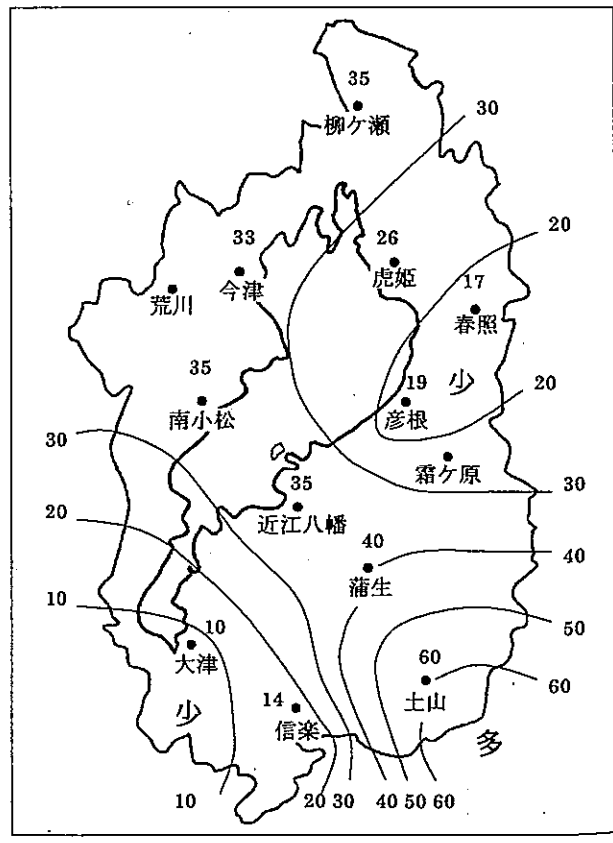
単位 (cm)
地域気象観測所における09時の積雪の深さ
(2月2日)

観測所	日	2日
柳ヶ瀬		35
今津		33
虎姫		26
荒川		-
春照		17
南小松		35
彦根		19
近江八幡		35
霜ヶ原		-
蒲生		40
大津		10
信楽		14
土山		60

-=なし

【積雪分布図】
(2月2日)

単位 (cm)



Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
大雪・風雪注意報	1日10時00分	発表
南部・大雪警報・風雪注意報、北部・大雪・風雪注意報	2日07時15分	切替
大雪・風雪注意報	2日14時45分	〃
〃	2日20時30分	解除

(イ) 気象情報

種 類	発 表 時 刻
大雪情報第1号	2日08時00分
大雪情報第2号	2日11時30分

(ウ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	2日07時15分	配備
〃	2日14時45分	解除

Ⅳ 被害の状況

区 分	被 害 の 程 度
農 業 施 設	ぶどう棚の全壊 1ha(竜王町) パイプハウスの全半壊 27棟(竜王町・近江八幡市・八日市市・能登川町・日野町) 養鶏小屋の全壊 22棟(竜王町)
交 通 障 害	県内の高速道路は名神上り線の関ヶ原-京都東インターと、下り線の京都東-大垣インターの間、北陸自動車道上り線の長浜-米原ジャンクション間、京滋バイパス全線がそれぞれ通行止めとなったが、14時20分までに全て解除された。
学 校	6市6町の15小学校、5中学校、36幼稚園が休校。中でも土山、蒲生、竜王、日野の4町は幼・小・中の全校が休校した。

平成 6 年

(1994年)

気象概況

この年の特徴は記録的な暑夏、空梅雨、年を通しての高温傾向であった。台風第26号による大雨で水不足が一時解消したが、年間の降水量は彦根で平年比69%の1137.5mmであった。琵琶湖の水位は9月15日に最も低い-123cmを記録した。年平均気温は彦根で平年より1.5℃も高い15.4℃で年平均気温では最も高い記録となった。

1月の気温は高めで経過したが、1月後半から2月末までは周期的に強い冬型の気圧配置となり県内各地に雪を降らせた。

3月は時々強い冬型の気圧配置となり、気温は平年より低くなった。4月、5月は移動性高気圧に覆われる日が多く、気温は平年より高く経過した。

夏は太平洋高気圧の西への張り出しとチベット高気圧の東への張り出しが非常に強かった。梅雨は平年並みの6月8日に入り、平年より9日早い7月10日に明けた。期間の県内の降水量は平年比31~51%と少なく空梅雨であった。

7月の月平均気温はかなり高く、彦根の月平均気温27.9℃(平年25.2℃)、8月の28.8℃(平年26.6℃)は共に最も高い記録となった。彦根の月間日照時間も7月は255.3時間(平年174.0時間)、8月は281.1時間(平年206.9時間)で共に最も長い記録となった。記録的な暑さと多照が続き、降水量はかなり少なく、一部の所で農林水産物に高温障害や干害が発生した。

9月も気温は高く経過したが、中旬と月末に大雨となり県内の月降水量は平年比88~226%と2倍を超える所があった。しかし、10月、11月は高温と少雨に戻り、県内の降水量は平年比23~79%と少なかった。12月も強い冬型にはならず暖冬となった。彦根では12月16日(平年12月7日)に平年より9日遅い初雪を観測した。

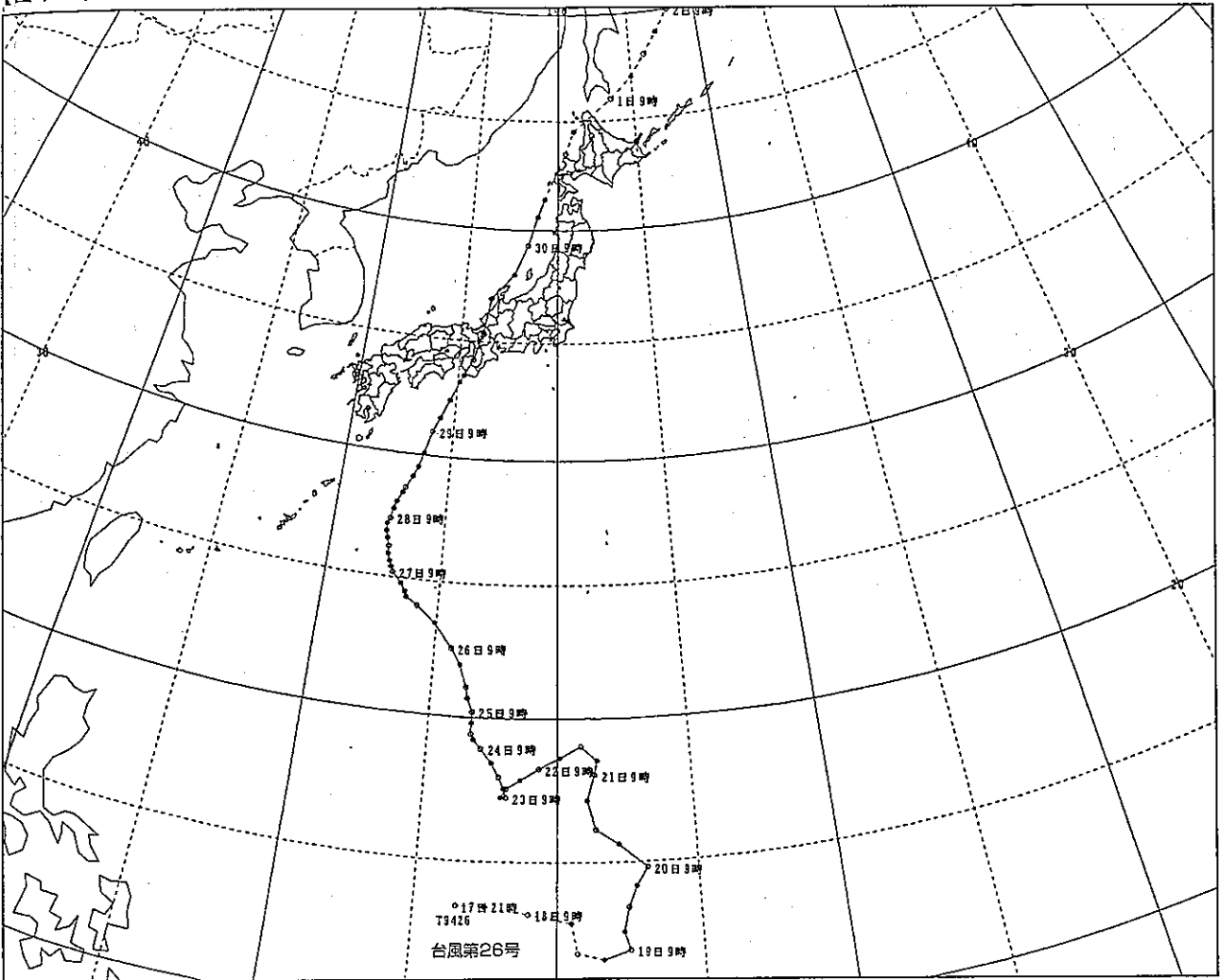
1

台風

(1) 台風の概況

発生数は36個で、平年の27.8個に比べて多く、1951年以降では1971年と並ぶ第2位の発生となっている。月別に見ると1~6月にはほぼ平年並みの4個が発生しているが、7~10月の4ヶ月間に30個も発生し、平年の18.9個を大きく上回っている。日本への接近数も平年の11.0個より多い15個で、多い方の順位で第4位となったが、日本本土への上陸数は3個と平年並みであった。

【日本に影響のあった台風の経路】



《彦根地方気象台における極値》

台風番号	最低気圧	最大風速	最大瞬間風速
台風第26号	973.2hPa	E 14.1m/s	E 32.1m/s

(2) 災害の状況

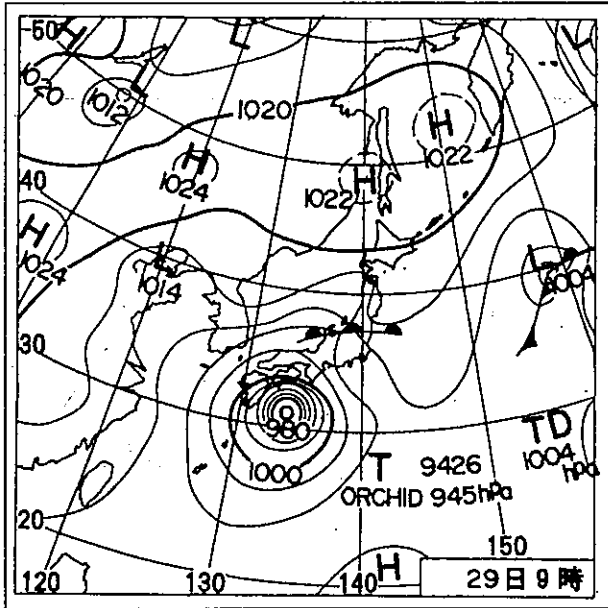
◆台風第26号(9月28日~30日)

I 気象の概要

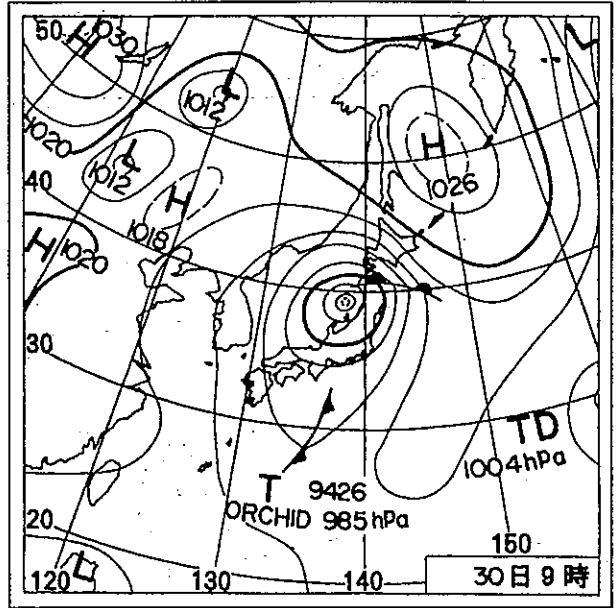
9月17日21時にフィリピンの東海上で発生した弱い熱帯低気圧は、東に進み、19日03時にグアム島の南西海上で台風第26号となった。台風は北北東、北北西、西南西、北北西と進路を変えながら発達し、24日03時には大型で非常に強い台風となった。その後、更に北北西に進み、27日には南大東島の近海に達した。

28日からは北北東に進み、29日06時まで大型で非常に強い勢力を保った後、大型で強い勢力となり、29日19時半頃には中心が和歌山県南部に上陸した。上陸後は近畿地方（29日の深夜には滋賀県上空）から北陸地方を通り、30日03時には日本海に進んだ。台風は更に北北東に進み、30日15時に青森県の西の日本海で温帯低気圧に変わった。この温帯低気圧は引き続き北北東に進み、北海道を経て10月3日03時にオホーツク海で消滅した。彦根における最低気圧は973.2hPa（29日23時18分）、最大風速は東の風14.1m/s（29日20時10分）、最大瞬間風速は東の風32.1m/s（29日22時11分）であった。

【9月29日9時の天気図】



【9月30日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

滋賀県では28日から断続的に雨が降り、特に29日の夕方から夜半にかけて各地で1時間20～50mmを超える豪雨となった。28日から30日の降水量は春照278mm、霜ヶ原276mmを記録し、県東部で豪雨に見舞われた。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

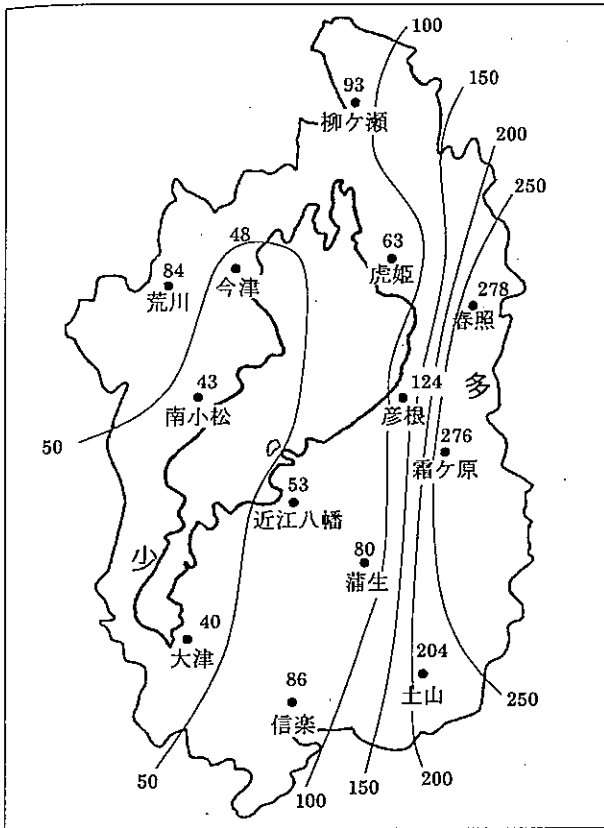
(9月28日～30日)

観測所	日	28日	29日	30日	計
柳ヶ瀬		20	34	39	93
今津		7	29	12	48
虎姫		7	50	6	63
荒川		13	59	12	84
春照		11	249	18	278
南小松		5	38	-	43
彦根		6	117	1	124
近江八幡		5	43	5	53
霜ヶ原		9	264	3	276
蒲生		11	69	-	80
大津		5	34	1	40
信楽		3	73	10	86
土山		26	174	4	204

-=なし

【降水量分布図】
(9月28日~30日)

単位(mm)



Ⅲ 出水の状況

台風第26号の通過に伴い、29日に強い雨域が滋賀県東部を南から北へ通過し、短時間の内に連続で111~355mm、特に29日20時から時間50~70mmの雨が3時間継続して降るなど、非常に激しい雨に見舞われた。

この豪雨出水により、鈴鹿山脈・伊吹山地を源流に持つ各河川野洲川、柚川、日野川、愛知川、姉川では警戒水位を越えて水位が上昇したため、水防警報を発令し県・市町をはじめ地元の水防団が警戒にあたった。

また、その他佐久良川、犬上川等の多くの河川で警戒水位を越えた。

このような状況のなかで永源寺町を流れる蛇砂川では天井川部分の堤防が決壊したのをはじめ、日野町の佐久良川、能登川町の愛知川、彦根市の犬上川など多くの河川で河岸が決壊し大きな被害を受けた。道路においても多賀町の国道306号線では大規模な法面崩壊が起きるなど各処で大きな被害が発生した。

また、市町管理の準用、普通河川や市町道でも上記同様の大きな被害を受けた。

Ⅳ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
強風注意報	28日15時40分	発表
暴風警報	29日11時20分	切替
暴風警報・大雨・雷・洪水注意報	29日15時20分	〃
大雨・洪水・暴風警報・雷注意報	29日19時30分	〃
強風・洪水注意報	30日03時50分	〃
強風注意報	30日10時00分	〃
〃	30日18時40分	解除

(イ) 気象情報

種 類	発 表 時 刻	種 類	発 表 時 刻
台風に関する情報1号	28日16時30分	台風に関する情報8号	29日20時00分
台風に関する情報2号	28日22時00分	台風に関する情報9号	29日22時00分
台風に関する情報3号	29日04時10分	台風に関する情報10号	29日23時00分
台風に関する情報4号	29日10時00分	台風に関する情報11号	30日00時00分
台風に関する情報5号	29日13時00分	台風に関する情報12号	30日01時00分
台風に関する情報6号	29日16時00分	台風に関する情報13号	30日04時00分
台風に関する情報7号	29日18時00分		

(ウ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配 備 ・ 切 替 ・ 解 除
第2号警戒体制	29日11時20分	配備
第1号警戒体制	30日03時50分	切替
〃	30日10時00分	解除

種 類	設 置 ・ 廃 止 時 刻	設 置 ・ 廃 止
災害警戒本部および地方本部	29日17時00分	設置
〃	30日09時00分	廃止

V 被害の状況

(ア) 人的被害

区 分	人	被 災 市 町 村 (人)
軽 傷	4	草津市(1) 野洲町(1) 甲西町(1) 長浜市(1)

(イ) 住家被害

区 分	棟	世帯	人	被災市町村(棟・世帯・人)	
住 家 被 害	半 壊	3	3	10	彦根市(1・1・3) 湖東町(1・1・1) 山東町(1・1・6)
	一部破損	248	260	997	草津市(14・14・34) 守山市(2・12・24) 栗東町(2・2・12) 石部町(3・5・14) 甲西町(1・1・2) 水口町(3・4・20) 土山町(2・2・8) 甲賀町(4・4・15) 甲南町(7・7・26) 日野町(54・47・197) 竜王町(3・2・12) 彦根市(2・2・10) 愛東町(2・2・13) 湖東町(1・1・4) 秦荘町(4・4・17) 愛知川町(7・11・140) 豊郷町(1・1・3) 甲良町(15・15・52) 多賀町(2・2・5) 長浜市(79・79・230) 山東町(21・21・72) 米原町(1・4・11) 浅井町(1・1・5) びわ町(16・16・64) 高月町(1・1・7)
	床上浸水	5	5	19	長浜市(2・2・5) 山東町(3・3・14)
非 住 家	床下浸水	282	280	902	水口町(2・2・7) 日野町(8・8・29) 永源寺町(4・4・18) 能登川町(5・5・18) 彦根市(17・17・45) 湖東町(4・4・16) 秦荘町(1・1・1) 多賀町(31・31・110) 長浜市(93・93・258) 山東町(51・49・178) 伊吹町(6・6・16) 米原町(52・52・171) 近江町(8・8・35)
	公共建物	94			水口町(2) 甲賀町(7) 甲南町(5) 日野町(21) 竜王町(2) 永源寺町(3) 彦根市(5) 愛東町(1) 秦荘町(1) 愛知川町(1) 甲良町(6) 多賀町(2) 長浜市(13) 山東町(1) 浅井町(13) 湖北町(5) びわ町(5) 余呉町(1)
	その他	157			守山市(1) 栗東町(4) 水口町(8) 土山町(4) 甲南町(3) 日野町(19) 竜王町(4) 永源寺町(7) 能登川町(2) 近江八幡市(2) 蒲生町(3) 五個荘町(1) 彦根市(7) 湖東町(1) 秦荘町(2) 豊郷町(1) 甲良町(5) 多賀町(10) 山東町(35) 伊吹町(2) 米原町(5) びわ町(28) 高月町(3)

(ウ) 農林水産・土木関係被害

区分	ha・箇所・世帯	被災市町村(ha、箇所)
畑 流失・埋没	27	土山町・甲賀町・甲南町・近江八幡市・八日市市・日野町・竜王町・永源寺町・湖東町・秦荘町・甲良町・多賀町・長浜市・山東町・米原町(調査市町村)
文教施設	79	栗東町(23) 甲南町(7) 信楽町(2) 蒲生町(2) 竜王町(1) 永源寺町(1) 五個荘町(2) 彦根市(3) 湖東町(5) 長浜市(18) 浅井町(6) びわ町(9)
病院	2	蒲生町(1) びわ町(1)
道路	215	栗東町(7) 水口町(4) 土山町(36) 甲賀町(18) 甲南町(1) 信楽町(8) 日野町(60) 永源寺町(2) 五個荘町(1) 彦根市(13) 愛東町(1) 湖東町(2) 秦荘町(4) 多賀町(28) 長浜市(4) 山東町(16) 伊吹町(1) 米原町(2) 近江町(1) 木之本町(4) 朽木村(2)
橋りょう	5	日野町(2) 湖東町(1) 秦荘町(1) 山東町(1)
河川	177	甲西町(3) 水口町(5) 土山町(17) 甲賀町(12) 甲南町(6) 信楽町(6) 近江八幡市(2) 安土町(1) 蒲生町(2) 日野町(32) 永源寺町(15) 五個荘町(1) 能登川町(2) 彦根市(16) 湖東町(10) 秦荘町(3) 甲良町(2) 多賀町(10) 長浜市(1) 山東町(11) 伊吹町(11) 米原町(7) 近江町(1) 浅井町(1)
砂防	3	日野町(1) 秦荘町(1) 伊吹町(1)
清掃施設	2	栗東町(1) 長浜市(1)
崖くずれ	62	土山町(23) 甲賀町(9) 日野町(8) 愛東町(1) 湖東町(4) 秦荘町(2) 多賀町(1) 山東町(4) 伊吹町(3) 米原町(4) 近江町(3)
鉄道不通	2	水口町(1) 信楽町(1)
電話	446	竜王町(4) 湖東町(20) 甲良町(20) 伊吹町(400) びわ町(2)
電気(停電)	13,839	大津市(282) 草津市(4) 野洲町(480) 水口町(1) 土山町(227) 甲賀町(170) 甲南町(60) 信楽町(166) 蒲生町(42) 日野町(340) 竜王町(750) 永源寺町(190) 彦根市(1090) 愛知川町(440) 豊郷町(380) 多賀町(2230) 長浜市(3420) 山東町(130) 伊吹町(440) 浅井町(477) 湖北町(1320) びわ町(1200)
ブロック塀	13	野洲町(1) 水口町(2) 竜王町(2) 彦根市(4) 豊郷町(2) 多賀町(1) 山東町(1)

(エ) り災者数・り災世帯数

名称	り災規模	被災市町村(世帯・人)
り災世帯数	世帯 8	彦根市(1・3) 湖東町(1・1) 長浜市(2・5) 山東町(4・20)
り災人数	人 29	

(オ) 被害金額

区分	金額(千円)	区分	金額(千円)
共立文教施設	31,734	農産被害	278,660
農林水産業施設	1,234,634	林産被害	1,071,775
公共土木施設	3,387,814	畜産被害	6,205
その他の公共施設	118,371	水産被害	2,800
〈小計〉	4,772,553	その他	129,954
		《被害総額》	6,261,947

(カ) その他の状況

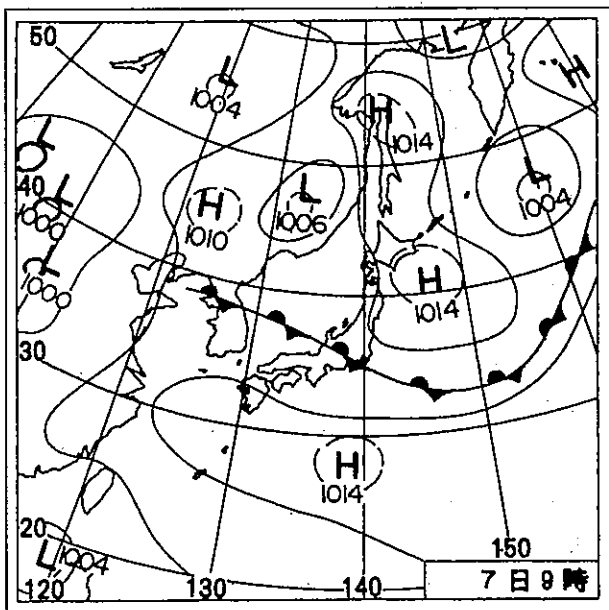
区分	被害の状況
学校関係	暴風警報が発表されたことで、各小中高校は午前中で授業を打ち切り、児童・生徒を帰宅させた。

◆大雨（7月7日～8日）

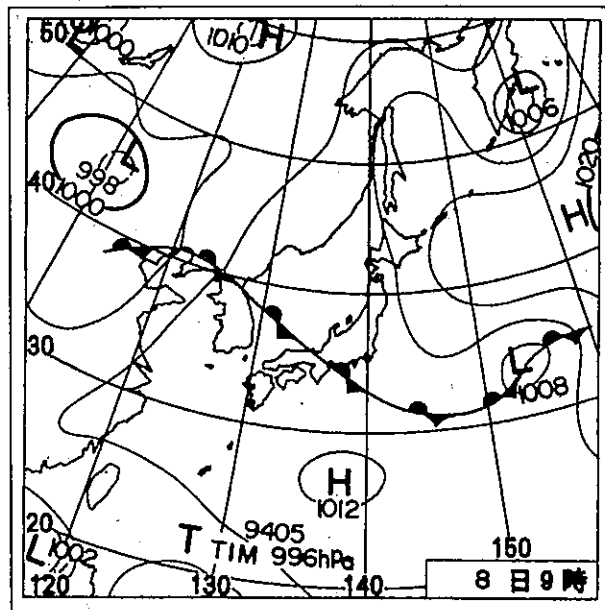
I 気象の概要

梅雨前線が日本海西部から近畿地方北部を経て東海地方に伸び、前線に向かって暖湿気流が入り、兵庫県南部付近で発生した雷雲が発達しながら東進して滋賀県南部を通過した。

【7月7日9時の天気図】



【7月8日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

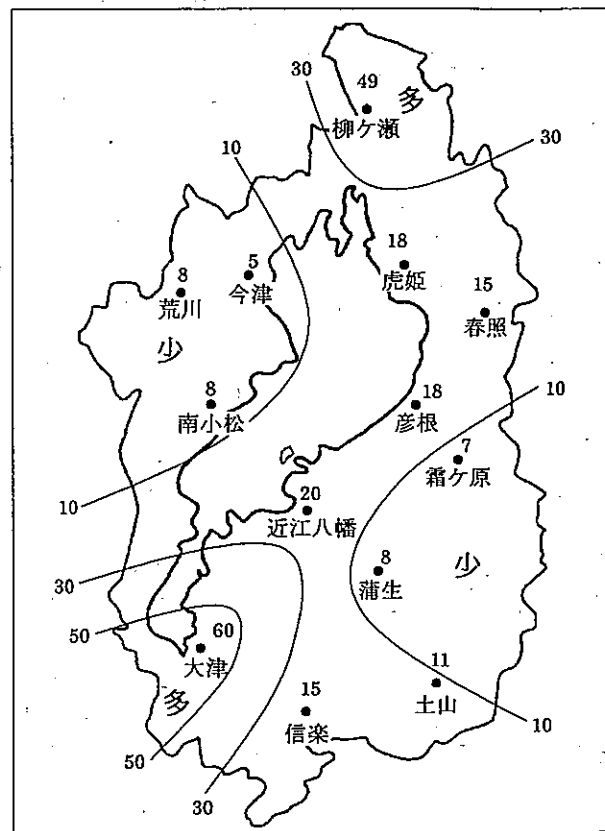
II 降雨の状況

大津では7日18時までの1時間に37mmの局地豪雨があり被害が発生した。

【降水量分布図】

単位 (mm)

(7月7日～8日)



《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

(7月7日～8日)

観測所	日	7～8日
柳ヶ瀬	49	
今津	5	
虎姫	18	
荒川	8	
春照	15	
南小松	8	
彦根	18	
近江八幡	20	
霜ヶ原	7	
蒲生	8	
大津	60	
信楽	15	
土山	11	

Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
雷注意報	7日10時30分	発表
雷注意報	7日15時10分	切替
大雨・雷・洪水注意報	7日16時40分	〃
大雨・洪水警報・雷注意報	7日17時45分	〃
大雨・雷・洪水注意報	7日20時30分	〃
雷注意報	8日01時30分	〃
〃	8日05時00分	解除

(イ) 気象情報

種 類	発 表 時 刻
大雨に関する情報第1号	7日18時50分

(ウ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	7日16時40分	配備
第2号警戒体制	7日17時45分	切替
第1号警戒体制	7日20時30分	〃
〃	8日01時30分	解除

Ⅳ 被害の状況

(ア) 住家被害

区 分	棟	世帯	人	被災市町村
床上浸水	1	1	5	大津市
床下浸水	4	4	12	大津市

(イ) 農林水産・土木関係被害

区 分	箇 所	被災市町村
電 気	5,680	大津市

(ウ) り災者数・り災世帯数

名 称	り災規模	被災市町村
り災世帯数	世帯 1	大津市
り災人数	人 5	

(エ) 被害金額

区 分	金額(千円)
その他	27,000
《被害総額》	27,000

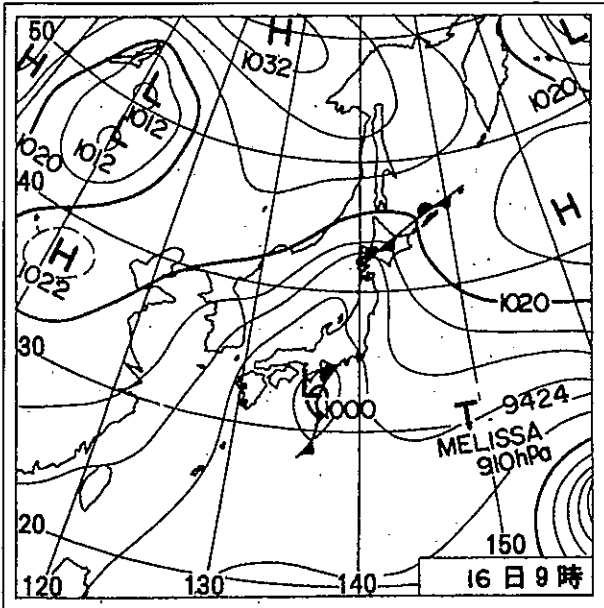
◆大雨(9月16日~17日)

I 気象の概況

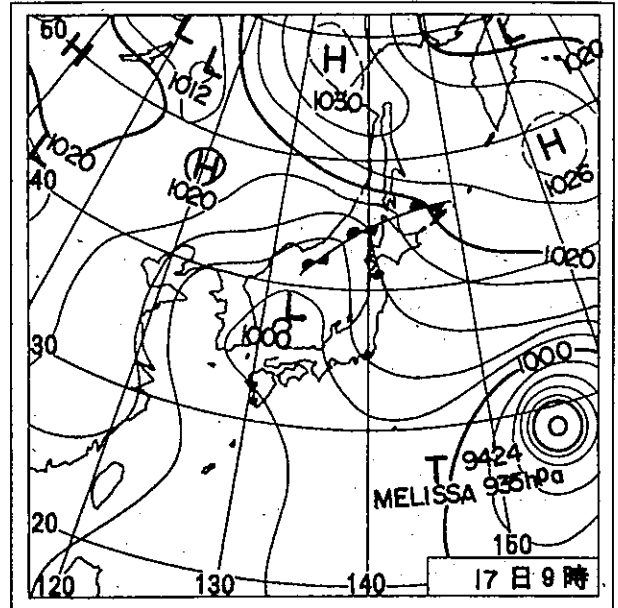
南海上には前線を伴った低気圧があり、また、日本海側には秋雨前線を含め深い気圧の谷となり、朝鮮半島の上空には寒気があった。一方、日本の東海上に中心を持つ太平洋高気圧の張り出しが強まり南海上から暖湿流が入り、近畿地方は大気の状態が不安定となり16日から17日にかけて大雨となった。

特に、16日の09時から12時にかけては各地で1時間30~50mmの豪雨となった。また、17日夕方にも1時間20~30mmの強雨があった。

【9月16日9時の天気図】



【9月17日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雨の状況

9月16日未明から降り始めた雨は、16日早朝より激しくなり、県下全域で時間雨量20mmを越える強い雨を記録した。中でも県の南東部と琵琶湖をはさんだ北西部の広い範囲で激しい雨に見舞われ、最大時間雨量は、土山町（土山）で52mm、日野町（日野）で47mm、水口町（水口）で42mm、甲賀町（大原）で40mmをそれぞれ記録したのを始め、湖西地方のマキノ町（マキノ）においても45.5mmを記録した。

また、最大24時間雨量も土山町（土山）で181mm、日野町（日野）で161mm、水口町（水口）で179mm、甲賀町（大原）で188mm、マキノ町（マキノ）で111mmの雨を記録した。

総雨量では前記名観測所で153～258mmを記録する豪雨となった。

《気象台観測所雨量》

単位 (mm)

地域気象観測所における降水量

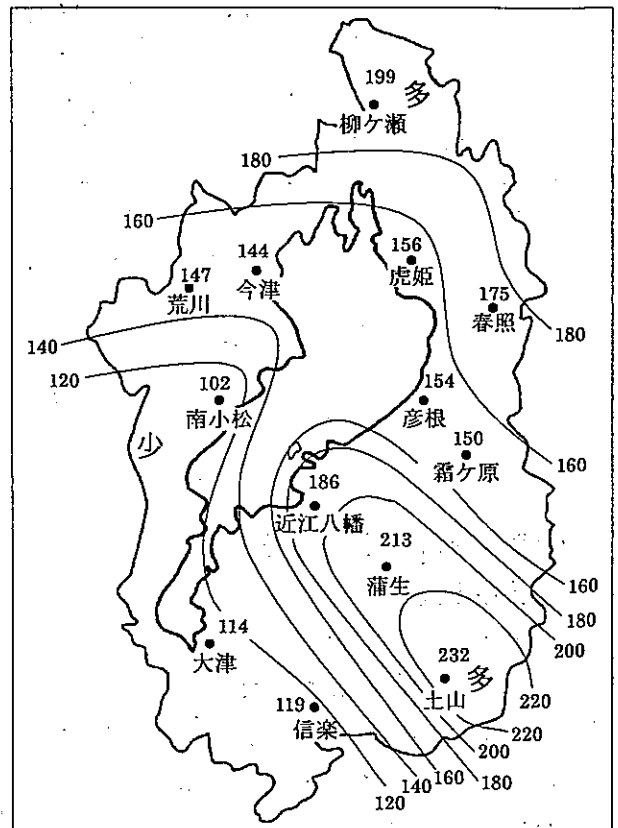
(9月16日～17日)

観測所	日	16日	17日	計
柳ヶ瀬		106	93	199
今津		107	37	144
虎姫		76	80	156
荒川		137	10	147
春照		104	71	175
南小松		93	9	102
彦根		91	63	154
近江八幡		160	26	186
霜ヶ原		97	53	150
蒲生		144	69	213
大津		109	5	114
信楽		110	9	119
土山		163	69	232

【降水量分布図】

単位 (mm)

(9月16日～17日)



Ⅲ 出水の状況

滋賀県上に停滞していた前線に、南から暖かい湿った空気が流れ込み活動が活発となり16日02時~13時頃にかけてと、17日10時~18時頃に集中的に降ったもので時間雨量が22~52mmといった豪雨となった。

最大24時間雨量についても89~188mmに達し、降り始めからの連続雨量も、250mm前後に達するなど非常に大雨を記録した。

このため、県下の広い範囲で各河川は増水し、中でも県東南部を流域に持つ大戸川や、日野川といった大きな河川においても、警戒水位を越えたため日野川では水防警報を発令し、警戒するとともにその他の河川においても県・市町を始め地元水防団が警戒にあたった。

この豪雨出水により、小河川では溢水し低地は浸水し、家屋の浸水や道路の通行規制など一般被害は大きく、各地河川の川岸の欠損や道路路肩法面崩壊等公共土木施設に被害が発生した。

《主要河川水位表》

河川名	観測所	専轄県 土木事務所名	警戒水位 (m)	最高水位 (m)	日 時
大 戸 川	旭橋	水口土木	2.30	2.35	16日11時
日 野 川	桐原橋	八日市土木	3.00	3.49	16日13時

Ⅳ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発表時刻	発表・切替・解除
大雨・雷・洪水注意報	16日07時20分	発表
大雨・洪水警報・雷注意報	16日09時25分	切替
大雨・洪水注意報	16日15時00分	〃
雷注意報	16日18時20分	〃
大雨・雷・洪水注意報	16日21時20分	〃
雷注意報	17日05時00分	〃
大雨・雷・洪水警報	17日13時10分	〃
雷注警報	17日20時30分	〃
〃	18日05時30分	解除

(イ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	16日07時20分	配備
第2号警戒体制	16日09時25分	切替
第1号警戒体制	16日15時00分	〃
〃	16日18時20分	解除
第1号警戒体制	16日21時20分	配備
〃	17日05時00分	解除
第2号警戒体制	17日13時10分	配備
〃	17日20時30分	解除

Ⅳ 被害の状況

(ア) 住家被害

区分	棟	世帯	人	被災市町村(棟・世帯・人)
住家 床下浸水	58	58	153	栗東町(1・1・1) 八日市市(10・10・36) 日野町(5・5・20) 長浜市(42・42・96)
非住家 その他	1			長浜市(1)

(イ) 農林水産・土木関係被害

区分	ha	箇所	被災市町村 (ha、箇所)
田	流失・埋没	0.92	土山町(0.92)
畑	流失・埋没	0.28	土山町(0.28)
その他	道路	17	水口町(2) 土山町(1) 甲賀町(2) 信楽町(1) 八日市市(2) 日野町(7) 今津町(2)
	河川	77	大津市(13) 草津市(1) 守山市(7) 中主町(1) 甲西町(1) 水口町(3) 土山町(5) 甲賀町(4) 甲南町(6) 信楽町(7) 日野町(8) 竜王町(8) 永源寺町(2) 五個荘町(2) 能登川町(3) 山東町(2) 伊吹町(3) 安曇川町(1)
	崖くずれ	1	土山町(1)

(ウ) 被害金額 (災害確定報告)

区分	金額 (千円)
農林水産業施設	41,000
公共土木施設	1,385,500
〈小計〉	1,426,500
《被害総額》	1,426,500

(ウ) 被害金額 (消防年報)

区分	金額 (千円)
農林水産業施設	41,000
公共土木施設	1,263,673
〈小計〉	1,304,673
《被害総額》	1,304,673

(エ) その他の状況

区分	被害の状況
道路被害	大津市植田上県道落石のため一時不通、近江鉄道水口城南駅冠水で徐行運転、名神高速道路は県内全線速度規制
学校関係	1時間目で打ち切ったのをはじめ、県内6校の児童・生徒らを早退させた。

3

強 風

◆強風(2月21日)

I 気象の概要

低気圧が発達しながら本州の南海上から三陸沖に進み、また、別の低気圧が日本海を東進した。22日は低気圧が更に発達してオホーツク海に進み、強い冬型の気圧配置となった。

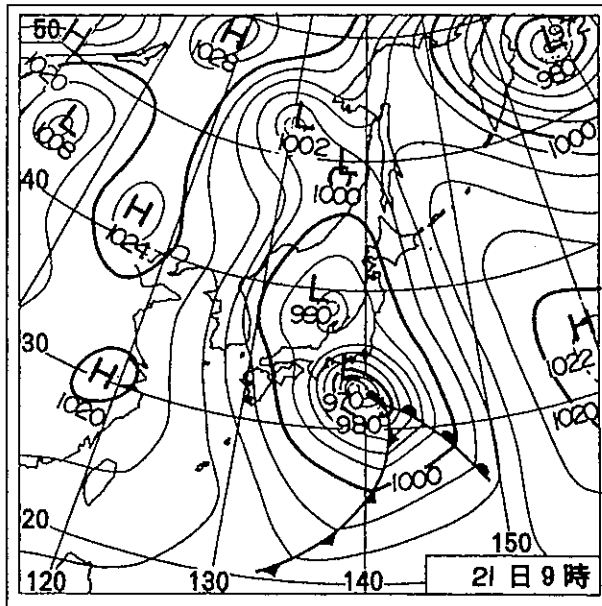
滋賀県では21日から22日にかけて北西の風が強く、

彦根では21日に

最大風速 北西14.8m/s

最大瞬間風速 北西28.2m/s を観測した。

【2月21日9時の天気図】



※ L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区 分	金額(千円)	被災市町村(千円)
ビニールハウスの破損等	921	マキノ町(292) 今津町(273) 安曇川町(200) 新旭町(156)

(イ) 被害金額

区 分	金額(千円)
農産被害	921
《被害総額》	921

◆強風（4月13日）

I 気象の概要

12日、低気圧が発達しながら日本海を北東進、13日はこの低気圧が更に発達しサハリン付近に進んだ。
このため12日は南東の風が、13日は北西の風が強く、

彦根では12日に最大風速 南東9.1m/s、最大瞬間風速 南東 17.9m/s、

13日に最大風速 北西7.5m/s、最大瞬間風速 北北西13.9m/sを記録した。

II 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
強風注意報	13日10時00分	発表
強風、乾燥、霜注意報	13日15時40分	切替
乾燥、霜注意報	13日20時30分	◇（強風注意報は解除）

4

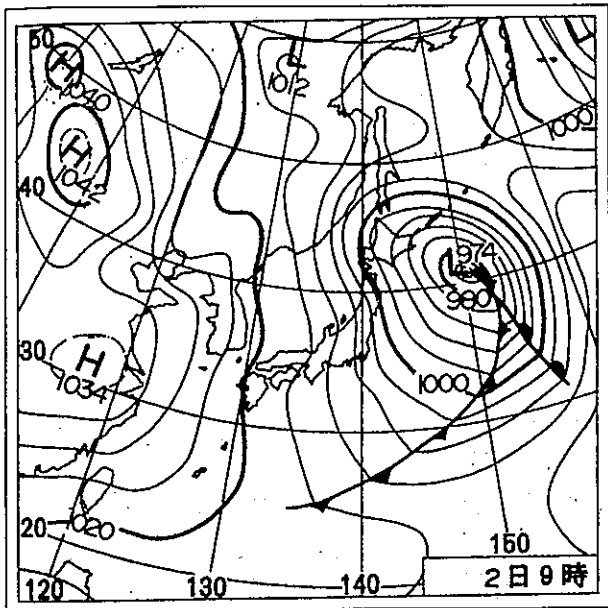
雪 害

◆大雪(2月2日~4日)

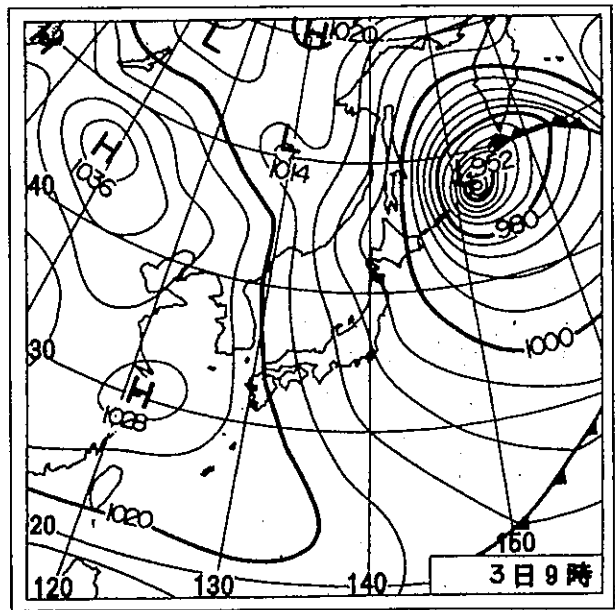
I 気象の概要

2月1日夜から大陸の高気圧が張り出し、冬型気圧配置が強まった。2日21時には500hPaで輪島上空に-35.9℃の寒気が南下し、更に沿海州には-43.5℃の第1級の寒気団があり、西日本に次々と寒気が入った。滋賀県では2日夜から本格的に雪が降り始めた。レーダー観測では若狭湾からの雪雲は下層の北西風のため県北部から伊勢湾に走向していたが一部は県南東部へ入り込んだ。このため、特に県北部は大雪となり3日17時に柳ヶ瀬で68cmの最深積雪を記録した。

【2月2日9時の天気図】



【2月3日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TD=熱帯低気圧

II 降雪の状況

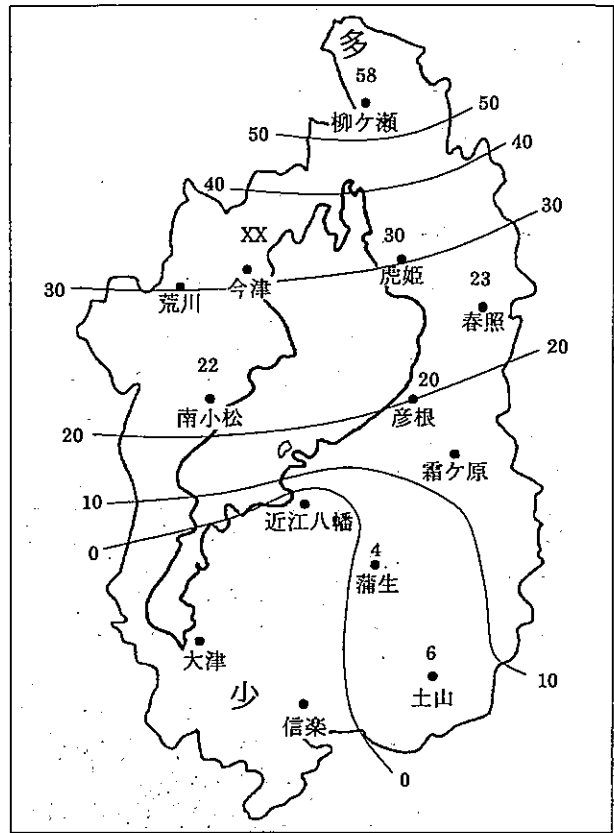
滋賀県では2日夜から本格的な雪が降り始めた。雪雲は若狭湾から県北部そして伊勢湾に移動していたが、一部は県南東部まで入り込んだ。このため県北部は大雪になり、3日17時に柳ヶ瀬で68cmの最深積雪を記録した。

単位 (cm)
地域気象観測所における09時の積雪の深さ
(2月4日)

観測所	日	4日
柳ヶ瀬		58
今津		XX
虎姫		30
荒川		-
春照		23
南小松		22
彦根		20
近江八幡		-
霜ヶ原		-
蒲生		4
大津		-
信楽		-
土山		6

-=なし XX=欠測

【降雪量分布図】
(2月4日) 単位 (cm)



Ⅲ 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発表時刻	発表・切替・解除
全県・風雪注意報	2日16時20分	発表
全県・大雪・風雪注意報	2日23時20分	切替
北部・大雪警報・風雪・雷注意報、南部・大雪・風雪・雷注意報	3日06時00分	〃
全県・大雪・風雪注意報	3日18時20分	〃
〃	4日05時30分	解除

(イ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	配備・切替・解除
第1号警戒体制	3日06時00分	配備
〃	3日18時20分	解除

Ⅳ 被害の状況

(ア) 被害金額

区 分	金額 (千円)
農林水産業施設	4,500
〈小 計〉	4,500
農産被害	470
〈被害総額〉	4,970

V その他の状況

区分	被害の状況
交通障害	2月2日県内では名神上り線栗東以北、下り線彦根以北、北陸自動車道上り線長浜-米原間、国道21号線、国道8号線竜王以北、国道161号線北小松以北がいずれも通行止めとなり、3日23時までにそれぞれ解除された。 また、2月3日9時から名神上り線が栗東-彦根間で通行止めとなり、16時30分に解除にされた。
学校	2月3日大津市の県立大津養護学校など障害児学校3校、定時制高校など3校が休校。その他、小、中、高校計13校が授業開始時刻を遅らせた。 2月4日養護学校、障害児学校3校、定時制高校など5校が休校。また、小・中・高校計47校が授業開始時刻を遅らせたり途中で打ち切るなどした。

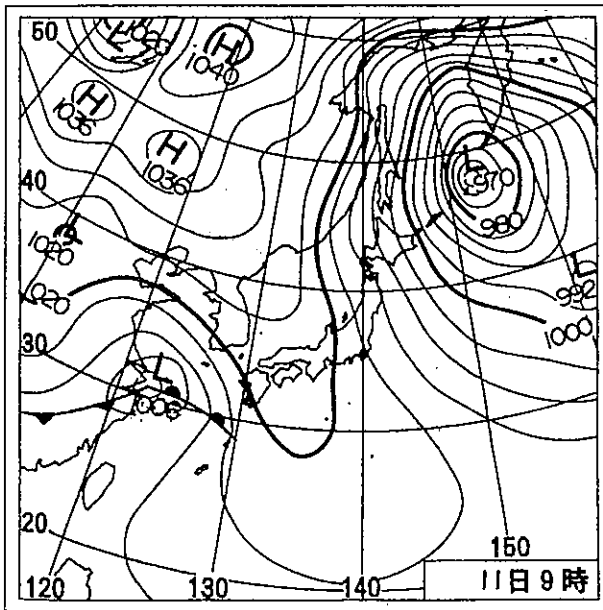
◆大雪(2月11日~12日)

I 降雪の状況

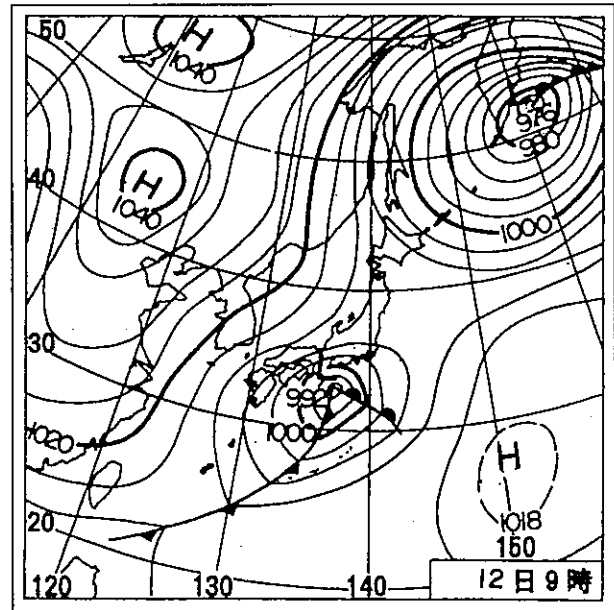
東シナ海の低気圧が11日夜から12日朝にかけて発達しながら西日本の南海上を東北東進した。このため、滋賀県全域で雪となり、12日09時には20cm前後の積雪となった。

その後低気圧は日本の東海上で更に発達し日本付近は強い冬型になった。12日21時の500hPaでは輪島の上空で-35.7℃まで下がり寒気の入りやすい場は14日の日中まで続いた。滋賀県では北西の風が強く、北部を中心に雪が断続的に降り、南部でも大雪となった。

【2月11日9時の天気図】



【2月12日9時の天気図】



※L=低気圧 H=高気圧 T=台風 TO=熱帯低気圧

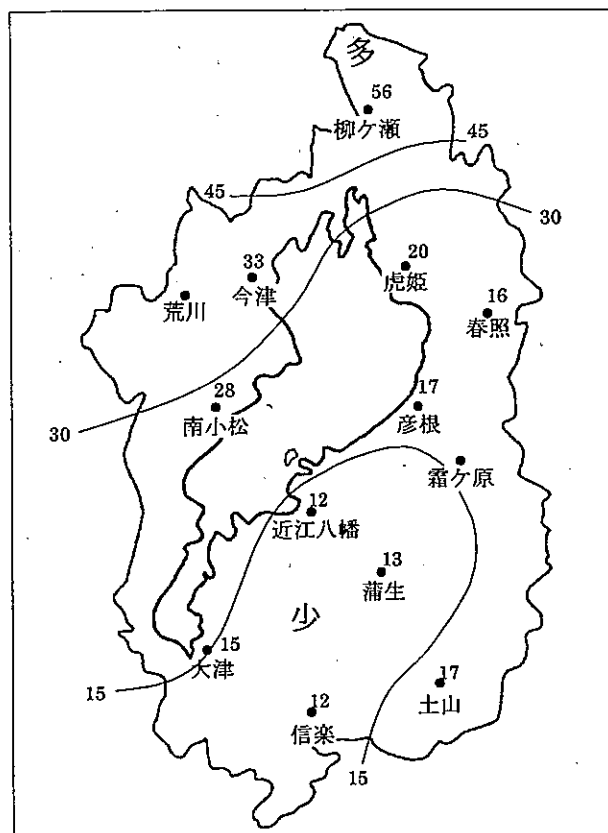
単位 (cm)
地域気象観測所における09時の積雪の深さ
(2月12日)

観測所	日	12日
柳ヶ瀬		56
今津		33
虎姫		20
荒川		-
春照		16
南小松		28
彦根		17
近江八幡		12
霜ヶ原		-
蒲生		13
大津		15
信楽		12
土山		17

- = なし

【降水量分布図】
(2月12日)

単位 (cm)



II 気象官署のとした処置

(ア) 注意報・警報の発表状況

種 類	発 表 時 刻	発表・切替・解除
南部・大雪・着雪注意報	12日00時10分	発表
全県・大雪・風雪注意報	12日08時40分	切替
全県・大雪・風雪・雷注意報	12日20時20分	〃
南部・風雪注意報、北部・風雪・なだれ注意報	13日13時40分	〃
南部・大雪・風雪注意報、北部・大雪・風雪・なだれ注意報	13日23時20分	〃
南部・風雪注意報、北部・風雪・なだれ注意報	14日05時30分	〃
北部・なだれ注意報	14日15時30分	〃

III 被害の状況

(ア) 被害金額

区 分	金額 (千円)
農林水産業施設	6,000
〈小 計〉	6,000
農産被害	9,435
〈被害総額〉	15,435

IV その他の状況

区分	被害の状況
交通障害	2月12日名神高速道路は早朝から9時まで閉鎖され、京滋バイパスでは巨椋～瀬田東間が通行止めとなった。また、13日未明から午前中にかけて名神高速道路の栗東～一宮間が上下線とも通行止めとなったが13日12時40分に解除された。

◆融雪(2月26日)

I 気象の概要

25日は冬型の気圧配置がやや緩み、県内各地の天気は回復して晴れた所が多く、気温も日中には6℃～8℃まで上がった。26日は北部を中心にしぐれ、所によって5～25mmの降水があった。

II 被害の状況

(ア) 農林水産・土木関係被害

区分	箇所	被災市町村
道路	2	多賀町
河川	1	多賀町

(イ) 被害金額

区分	金額(千円)
公共土木施設	145,000
〈小計〉	145,000
〈被害総額〉	145,000

◆異常乾燥（5月上旬～10月中旬）

I 気象の概要

5月中旬から移動性高気圧に覆われ晴れる日が多くなった。梅雨入りは平年並みであったが、梅雨明けは平年より9日早く、梅雨期間の降水量は平年比31～51%と少ない空梅雨であった。夏は太平洋高気圧の西への張り出しとチベット高気圧の東への張り出しが非常に強かった。このため、7月、8月は記録的な高温が続き、共に月平均気温の極値を更新し、9月も気温は高めであった。彦根の月間の日照時間をみると、7月は平年比147%の255.3時間、8月平年比136%の281.1時間で、共に最も長い記録となった。その後も9月は平年比120%の181.9時間、10月は平年比104%の169.8時間と多照傾向が続いた。一方、雨は9月上旬まで少雨であったが、9月中旬と月末にまとまった雨が降り、9月の降水量はかなり多めとなったが、10月は再び高温、少雨、多照となった。

II 被害の状況

(ア) 農産物被害

市町村名	作物名	面積 (ha)	減収量 (t)	被害金額 (千円)
全県下	水 稲	430.5	887	263,746
今津町・米原町	かんしょ	3.0	15	4,025
伊吹町・今津町	だいず	8.2	7.9	2,309
今津町	あずき	1.0	0.5	500
甲良町	きゅうり	0.5	0.5	50
甲良町	な す	0.5	0.5	100
甲良町・湖北町	ト マ ト	0.8	2.5	425
安曇川町・今津町	キャベツ	8.0	100	6,120
安曇川町	だいこん	5.0	45	3,150
今津町	か ぶ	2.0	44	3,500
木之本町	やまいも	0.1	0.1	375
木之本町・西浅井町	みょうが	0.2	0.3	100
余呉町	さんしょ	2.0		1,600
びわ町	いちご	1.1		1,125
高月町	すいか	11.5	80	8,500
びわ町・竜王町	ぶどう	24.6	73	58,946
湖東町・日野町	りんご	2.2	0.3	260
愛東町・彦根市	な し	25.5	120.6	51,660
湖東町	も も	0.3		100
湖東町	いちじく	0.7		100
今津町・伊吹町	か き	36.6	80.7	12,285
マキノ町	く り	50.0	1.6	2,400
永源寺町	牧 草	7.0		382
八日市町・日野町	とうもろこし	50.3		3,075
浅井町	ソルゴー	1.0		116
彦根市	切り花類	5.2		6,800
余呉町他2町	桑	0.6		60
愛東町他3町	茶	17.6		12,870
合 計				444,679

(ウ) 被害金額

区 分	金額 (千円)
農産被害	444,679
林産被害	163,005
畜産被害	14,405
《被害総額》	624,286

(エ) 畜産被害

区 分	被害数量 (頭・羽)	被害額 (千円)
成牛 (乳用)	28	9,130
成牛 (肉用)	5	1,750
成豚 (豚)	9	378
成鶏 (採卵鶏)	300	300
ブロイラー	5,300	2,847
合 計		14,405

(オ) 林産被害

区 分	面積 (ha)	被害額 (千円)
造林地等被害	97.80	32,153
苗畑等被害	1.61	17,059
治山事業施行地被害	237.25	113,793
合 計		163,005

(カ) 樹体被害

区 分	被害額 (千円)	面積 (ha)	市町村名
桑 樹	184	0.6	余呉町
茶 樹	2,013	7.0	愛東町
合 計	2,197	7.6	